

令和2年度

(2020年度)

社会福祉法人 東蒲原福祉会

事業報告書

東 蒲 の 里

東 蒲 の 里 み か わ 園

ど ん ぐ り

# 目

# 次

## I 令和2年度社会福祉法人東蒲原福祉会 法人事務局 事業報告

	頁
1. 入職・離職状況	1
2. 人員構成	1
3. 法人委員会開催状況	
3-1. 組織強化チーム	2
3-2. サービス管理向上チーム	3
3-3. スキルアップチーム	4
4. 東蒲原福祉会研修報告	5

## 1 入職・離職状況

### 1. 令和2年度入職・離職状況（常勤8時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里 (とこなみ含む)		みかわ園		どんぐり	
職員数 (4月1日)	124人		3人		46人		40人		35人	
	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職
4月	3	0	1	0	1	0	0	0	1	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
7月	1	3	0	0	0	1	0	1	1	1
8月	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0
9月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
10月	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1
11月	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0
2月	3	0	1	0	1	0	1	0	0	0
3月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	11	11	3	1	5	5	1	1	2	4
入職率	8.87%		100.00%		10.86%		2.50%		5.71%	
離職率	8.87%		33.33%		10.86%		2.50%		11.42%	

※ 令和1年度の法人全体の入職率0.76%（1人）、離職率7.69%（10人）

#### 【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

#### 【参考】

令和1年度の介護業界全国平均離職率15.3%

## 2 人員構成

### 1. 令和2年度事業所別・雇用形態別職員数（令和3年3月31日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	どんぐり
職員	121人	4人	45人	39人	33人
臨時的採用職員	0人	0人	0人	0人	0人
パート職員	56人	3人	19人	19人	15人
シニア職員	10人	0人	1人	4人	5人
登録ヘルパー	9人	0人	0人	0人	9人
合計	196人	7人	65人	62人	62人

### 3-1 組織強化チーム

#### 1. 委員会開催状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に委員会の開催ができなかった。

#### 2. 結果及び課題

##### (1) 人事考課制度について

- ・令和2年度の人事考課制度による職員評価は予定通り実施できたが、上記の理由により見直しについての検討が行えなかった。

##### (2) 今後の取組について

- ・今年度は計画通りの活動が困難であったことから、次年度は会議の開催方法についてITを活用し、効率よく検討を行えるようにする。

## 3-2 サービス管理向上チーム

### 1. 委員会開催状況

開催日	協議事項
4月23日 (ワーキング)	○令和2年度事業取り組み検討 ・令和2年度事業計画
7月23日 (ワーキング)	○今までに行ったQCサークルの実施状況の確認 ・東蒲の里：テーマ「園内研修の出席率について」「居室の整理整頓」 ・東蒲の里みかわ園、短期入所：テーマ「衣類の忘れ物をなくそう」 ・ケアセンターどんぐり短期入所：テーマ「レクリエーションの実施回数を増やそう」 ・ケアセンターどんぐり小規模多機能：テーマ「1日の水分摂取量を増やす」
10月23日 (ワーキング)	○各施設における令和元年度QCサークル活動の進捗状況（2回目） ・東蒲の里：テーマ「園内研修の出席率について」 ・東蒲の里みかわ園、特養：テーマ「職員の勤務態勢について」 ・ケアセンターどんぐり小規模多機能：テーマ「1日の水分摂取量を増やす」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「時間外勤務を減らそう」

### 2. 結果及び課題

#### (1) 各施設におけるQC活動について

- ・平成29年度から3年間、各施設において行ったQC活動が、今も効果的に機能しているか確認した。

QC活動当時と変わらず効果が続いていることもあれば、コロナ禍において集団研修ができない、また、勤務時間の改正により効果が見られなくなった改善策もあった。

#### (2) 今後の取り組みについて

- ・コロナ禍において、感染症対策、ICTの活用など様々な変化があったため、再度、各施設において、一つのテーマを決めてQC活動を行っていく。

### 3-3 スキルアップチーム

#### 1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
4月17日	○令和2年度研修内容・担当について ・東蒲原福社会研修別対象職員一覧表の確認 ・同業種研修・異業種研修について ○新任職員研修について
12月16日 (zoom)	○新任職員研修について ・新型コロナウイルス感染症予防の研修について ・zoomを取り入れた研修について
12月23日 (zoom)	○2月の新任職員研修について ・zoom研修のやり方について ・実技を伴う研修について
1月20日 (zoom)	○新任職員研修について ・新型コロナウイルス感染症が阿賀町で発症した場合について ○来年度の法人研修について ・異業種研修・同業種研修について ・指導力向上研修について

#### 2. 結果及び課題

##### (1) 令和2年度の研修について

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、指導力向上研修、5年目振り返り研修等の集合研修が実施できなかった。
- ・外部の事業所や施設等に出向いて実施する同業種研修・異業種研修についても中止とした。

##### (2) 新任職員研修

- ・新任職員研修については、4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い重要な研修のみを行い、7月に残りの研修を行った。中途採用多かったため8月・11月・1月・2月と研修開催時期をずらして実施した。  
新型コロナウイルス感染予防についての研修（1時間）を新たに追加し、東蒲原福社会の感染症予防についての理解を深めた。  
1月の研修からzoomでの研修を取り入れ、分散して研修が受けられるように体制を整えた。

##### (3) 今後の取り組み

- ・ケアセンターどんぐりの朝日より継続された職員に対しての研修について、2年目が終了した。研修体系に沿った研修が終了できるよう次年度も継続して実施していく。
- ・新型コロナウイルス感染による感染拡大防止策が図られている中、集合研修が難しい状況となっている。今後の状況により計画通りの研修実施ができない可能性もあるため、感染症予防策を取りながら、必要な研修をどのように行っていくか検討をしていく。

## 4 東蒲原福社会研修報告

### 1. 研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	年度中	東蒲原福社会新任職員研修 講師：東蒲原福社会 職員	新任職員	11名

### 2. 結果及び課題

- (1) 東蒲原福社会研修体系に基づいた研修については、新任研修を除き新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。
- (2) 今後の取組について
  - ・就業時間を考慮した研修の日程や時間帯を検討し、感染症対策をとったうえでの研修を計画し、多くの職員が研修に参加できるように計画したい。

## Ⅱ 令和2年度社会福祉法人東蒲原福社会

### 東蒲の里 事業報告

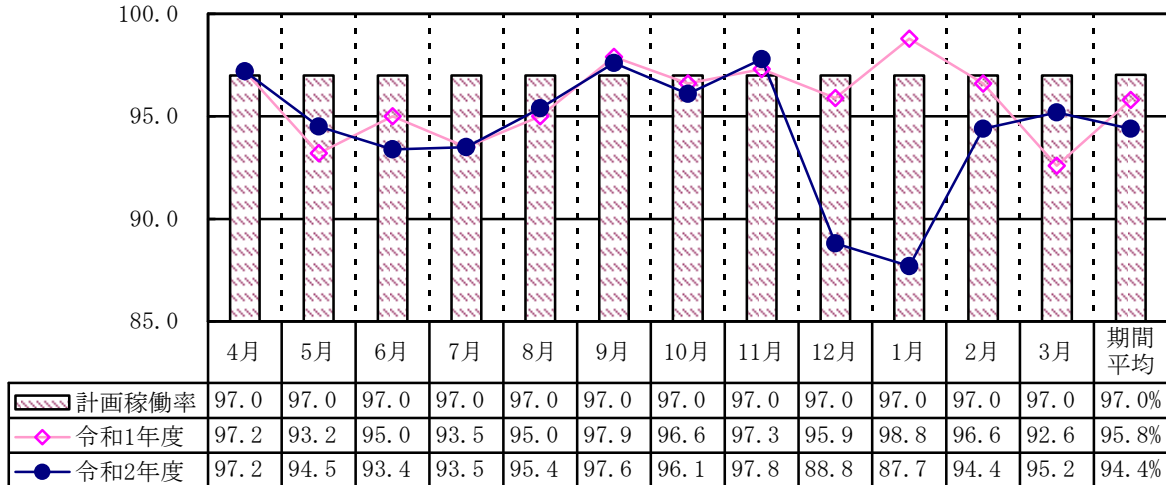
	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	6
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	9
3. 通所介護事業（デイサービス）	1 2
4. 居宅介護支援事業	1 6
5. 障害者共同生活援助事業（グループホーム）	1 9
6. 障害者短期入所事業（ショートステイ）	2 2
7. 障害者生活介護事業	2 4
8. 放課後等デイサービス事業	2 7
9. 東蒲の里研修報告	3 0
10. 東蒲の里ボランティア活動状況	3 2
11. 東蒲の里災害対策	3 3
12. 東蒲の里苦情受付・対応報告	3 4
13. 東蒲の里事故等発生状況報告	3 5
14. とこなみ事故等発生状況報告	3 7



# 1 介護老人福祉施設

## 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,238日であったことから

$$\frac{17,238 \text{ 日}}{18,250 \text{ 日 (50人} \times 365 \text{ 日)}} = 0.9445 \quad \text{稼働率 } 94.4\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

## 2. 要介護度別入所者数(令和3年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
令和1年度	0	0	4	26	20	4.32
令和2年度	0	1	11	26	12	3.98

## 3. 要介護度状態の変化(令和3年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	4人
維持	44人
悪化	2人
合計	44人

#### 4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月13日	観桜会	・外へ散歩がてら桜を見て気分転換を図った。 お茶の時間にプリンを提供し写真撮影を行った。
7月7日	七夕会	・ご利用者、ご家族から願いを書いていた 短冊をつけて、七夕飾りと一緒に写真撮影を行 った。
9月15日	敬老会	・壇上を作り、記念撮影を行った。
10月14日	秋祭り	・昼食に軽食を用意し、記念撮影を行った。
12月15日	クリスマス会	・ケーキとクリスマスプレゼントを渡し、記念撮影を 行った。
1月1日～ 2日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会として、お汁粉、甘酒を用意し、ご利用 者に正月の雰囲気味わっていただいた。
2月3日	節 分	・鬼に扮した職員が各居室や食堂を回り、ご利用 者と記念撮影を行った。
3月3日	ひな祭	・お雛様とお内裏様の前で記念撮影を行い、食堂 においてお饅頭を食べていただいた。

## 5. 事業報告(総括)

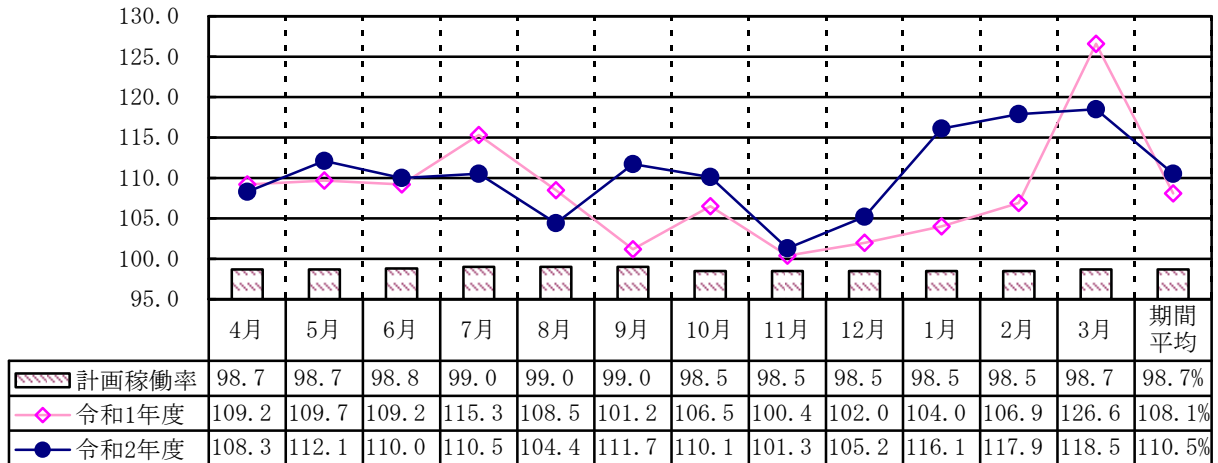
<p>個々のご利用者の求める介護ニーズの変化に対応するため、各種ケアの専門性を高めます。</p>	
<p>取 組 事 項</p>	<p>① 認知症ケアの充実のため、専門性の高い職員を養成するよう各種研修に参加します。学んだ知識を事業所内研修にて他の職員に広め、職員個々の知識向上を図り、より良い認知症ケアの実践を行います。</p> <p>② 各職員の根拠に基づいたケアを実践するため、マニュアルを見直します。</p>
<p>実 績</p>	<p>① 自立支援介護研修会に参加し、事例を参考に、水分摂取量の増加や、歩行を通じて運動する時間の増加、食事形態の見直しを行った。</p> <p>② 介助方法の手順書を見直し、利用者の状態に合わせた修正を行うことができた。</p>
<p>課題と今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に体を動かす、刺激を受けるなどの活動する時間が少ないため、レクリエーションや体を動かす時間を設けます。</li> <li>・ 感染症対策、標準的予防策を踏まえた手順書の見直しを行っていきます。</li> </ul>

<p>当施設が、津川地区を中心にセーフティネットとしての役割を果たすと共に、ご利用者が地域と繋がりのある生活ができる施設を目指します。</p>	
<p>取 組 事 項</p>	<p>① ご利用者が住み慣れた地域との繋がりを実感できるよう、外出の機会を増やします。</p> <p>② 地域の訪問活動や交流会に参加し、施設での取り組みの内容や介護技術等を紹介します。</p>
<p>実 績</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症対策のため、外出などを行うことができなかった。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症対策のため、地域における交流会がなくなり、取り組むことができなかった。</p>
<p>課題と今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設内の生活に限らず小さなグループで外気浴やドライブを行います。</li> <li>・ ご家族と面会する機会を増やせるよう、面会できる時間設定や方法の見直しを行います。</li> </ul>

## 2 短期入所生活介護事業

### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



#### ※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(8人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,229日であったことから

$$\frac{3,229 \text{ 日}}{2,928 \text{ 日} (8 \text{ 人} \times 366 \text{ 日})} = 1.102 \quad \text{稼働率 } 110.2\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

#### ※稼働率が100%を超えている理由について

- ・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和1年度	34	63	49	437	590	461	1,152	380	3,166日
令和2年度	10	74	0	760	624	257	758	746	3,229日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	25	25	28	28	26	27	27	24	23	25	25	26	26人
延べ利用日数	260	278	264	274	259	268	273	236	261	298	264	294	269日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和1年度	1.14	5.06 日	3.35	10.28 日
令和2年度	1.00	4.36 日	3.01	10.90 日

5. 要介護度状態の変化(令和3年3月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	1 人
維 持	1 人	23 人
悪 化	0 人	3 人
合 計	1 人	27 人

※障害者利用は除く

6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

## 7. 事業報告(総括)

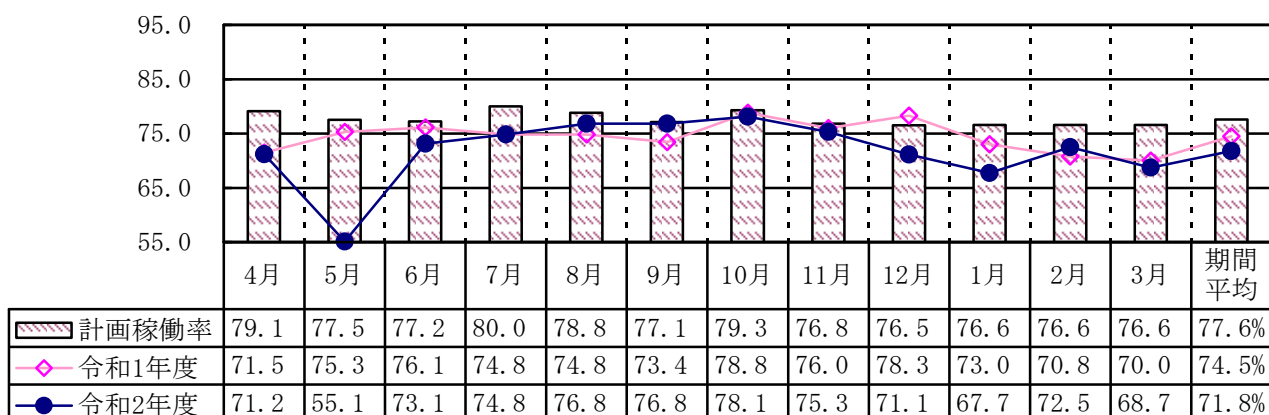
ご利用者やご家族が安心して在宅生活が続けられるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用中に一人ひとりの身体機能を把握するとともに、法人内のデイサービスやホームヘルパーと連携を図りながら利用者の健康状態の安定や身体機能の向上に向けたケアを実践します。</li> <li>② 利用者一人ひとりの状況に応じたケアをご自宅でも継続できるよう、ご家族や担当介護支援専門員に施設で行っているケア内容について情報提供します。</li> <li>③ ご利用者に季節を感じていただけるよう、行事の参加や外出の機会を計画します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 機能訓練の方法、食事形態、処置の必要な方の対応等、他事業所と情報共有することで統一したケアを提供できた。</li> <li>② 連携ノートや毎月、介護支援専門員へ提出する利用状況報告書を通じて情報の共有を図った。</li> <li>③ 新型コロナウイルス感染症対策のため、外出等は実施できなかった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の身体機能を把握するとともに、利用者の健康状態の安定と、身体機能の向上が図れるよう取り組みを行います。</li> <li>・ 感染症予防のため標準的予防策を徹底し、ご利用者同士の感染を防ぐため感染症対策に努めます。</li> </ul>

当事業所の職員が、地域住民やご利用者家族との交流を深め、互いに協力し合える関係作りに努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① デイサービスやショートステイを利用しているご家族や地域の方々を対象とした交流会を開催し、介護に関する情報提供を行います。</li> <li>② 施設での取り組みを紹介するミニ通信の発行とサービスに関する情報を掲載したパンフレットを作成します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新型コロナウイルス感染症対策のため、交流会を実施することができなかった。</li> <li>② 定期的にご利用者家族に向けて、施設での日常の様子など写真を掲載した「ミニ通信」を発行した。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍で施設職員と家族の交流が減少していることから、施設での取り組みなどを紹介する「ミニ通信」の発行回数を増やし情報発信を行います。</li> </ul>

### 3 通所介護事業

#### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



#### ※稼働率について

・通所介護事業の1日定員(25人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が5,582日であったことから

$$\frac{5,582 \text{ 日}}{7,775 \text{ 日} (25 \text{ 人} \times 311 \text{ 日})} = 0.7179 \quad \text{稼働率 } 71.8\%$$

(延べ利用日数)                      (定員)      (実稼働日数)

#### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和1年度	406	500	463	1,034	878	1,249	741	500	5,771 日
令和2年度	288	523	403	1,642	1,050	743	465	468	5,582 日

#### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	65	57	71	70	70	71	73	67	65	60	64	63	66 人
延べ利用日数	463	358	475	505	499	499	527	471	480	406	435	464	465 日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和1年度	1.41	6.06 日	2.90	7.97 日
令和2年度	1.33	5.89 日	2.51	7.37 日

5. 要介護度状態の変化(令和3年3月にご利用されている方を対象としています)

内 容	要支援	要介護
改 善	2人	0人
維 持	7人	33人
悪 化	0人	6人
合 計	9人	39人

※基準該当3名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月15日 ～18日	観 桜 会	・デイサービスフロアにて抹茶をいただきながらお花見を行った。
7月1日 ～7日	七 夕 会	・短冊に願い事を書いていただき、七夕飾りを作り楽しんでいただいた。
9月14日 ～18日	敬 老 会	・1週間式典とプレゼント贈呈、曜日毎に職員による余興を楽しんでいただいた。
12月22日 ～28日	忘 年 会	・日替わりで職員の余興を披露した。最終日にはご利用者と一緒に餅つきを行った。
1月13日 ～15日	団 子 さ し	・皆さんで団子を丸め、装飾品を飾って楽しまれた。
2月1日 ～6日	節 分	・職員が鬼に扮し、ご利用者に節分の雰囲気を楽しんでいただいた。



## 7. 事業報告(総括)

<p>ご利用者やご家族が心身共に安心して在宅生活が続けられるよう支援します。</p>	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自宅でのご利用者の生活環境や生活状況を把握し、自宅で安全に過ごしてもらえるよう、科学的介護の理論に基づいたケアを行い、身体機能の維持、向上のための活動を実践します。</li> <li>② 認知症のご利用者が精神面での安定を図り安心して過ごせるよう、その方に合った認知症ケアを実践します。</li> <li>③ ご利用者の健康状態の観察と状態の変化を把握し、健康状態の安定を図るとともに異常の早期発見に努めます。又、異常があった際には家族及び医療機関、介護支援専門員に情報提供を行い、適切な対応ができるよう支援します。</li> <li>④ ご利用者、ご家族が希望する利用方法に繋がるよう、法人内のショートステイやホームヘルパーと連携を図ります。</li> <li>⑤ ご利用者及びご家族の各種相談に対して、各職種が専門的な相談支援を行います。また、在宅生活の状況に合わせた利用方法について提案をします。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自宅での水分摂取状況や活動量及び排便状況などを確認しながら、必要に応じて個別にアドバイスを行った。専従の機能訓練指導員を配置してからは、個々の生活環境とニーズをもとに生活の質の向上に向けた計画の作成と訓練の実施を行った。</li> <li>② 個別の症状や家庭での状況などを確認し、ニーズに合わせたケアを提供した。</li> <li>③ 健康状態の変化を確認した場合、連携ノートや関係機関への連絡等で情報の共有を図った。また、在宅で看取りをしているご家庭では、利用者の状態変化時の対応方法についてその都度確認しながら支援を行った。</li> <li>④ ショートステイの生活相談員と連携し、希望するサービスを利用できるよう、調整を行った。</li> <li>⑤ 健康管理や機能訓練、利用日の変更など各種相談に対し、専門職が相談支援を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅生活や在宅介護が安全に継続できるよう、リスク管理や予防的視点からの情報提供を行います。</li> <li>・ 在宅看取りや生活の質の向上、認知症対応など個々のニーズが多様化してきている。個々の目的に合った支援が行えるよう、職種毎にスキルアップを図ります。</li> </ul>

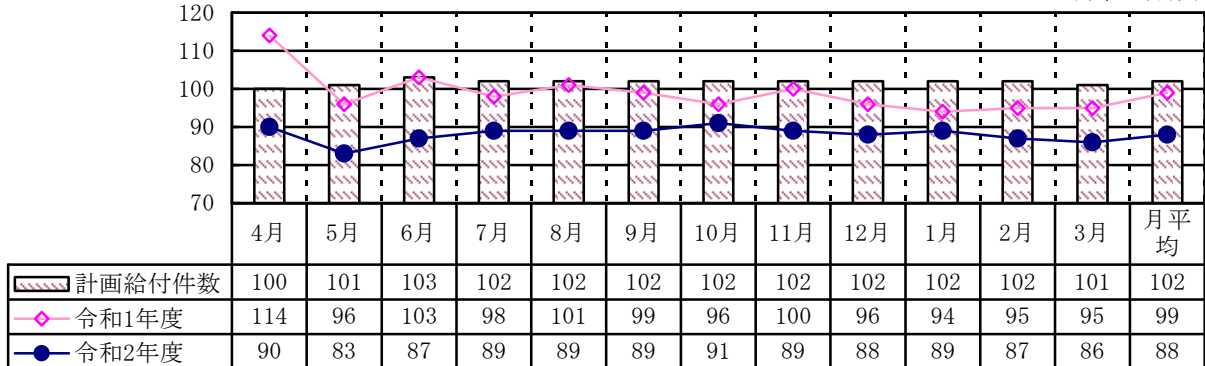
地域住民やご家族との交流を図り、在宅ケアの中心として信頼を深めます。	
取組事項	① デイサービスやショートステイを利用しているご家族や地域の方々を対象とした交流会を開催し、デイサービスでの活動内容の紹介や介護に関する情報提供を行います。
実績	① 新型コロナウイルス感染予防のため、交流会は行わなかった。個々の相談に対しては、その都度、介護方法や健康管理、機能訓練等の情報提供を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民に対しては、交流会に代わる方法を検討します。</li> <li>・ ご利用者個々の状態に合わせて、複数の選択肢の中から適切なケアを選択し提供します。</li> <li>・ リスク管理を念頭に置いたケアの方法を、ご家族に対して提案していきます。</li> </ul>

## 4 居宅介護支援事業

### 1. 要介護者給付管理状況

(給付管理件数)

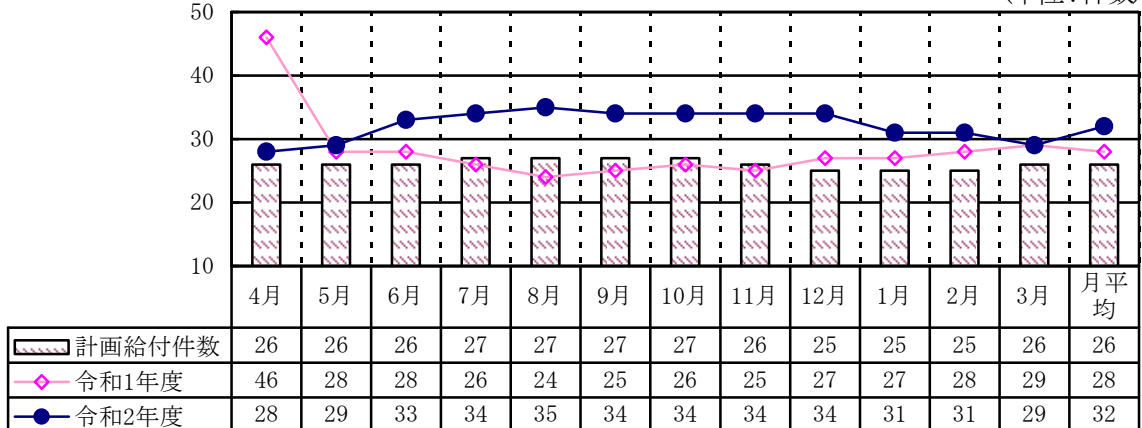
(単位:件数)



### 2. 介護予防給付管理状況

(給付管理件数)

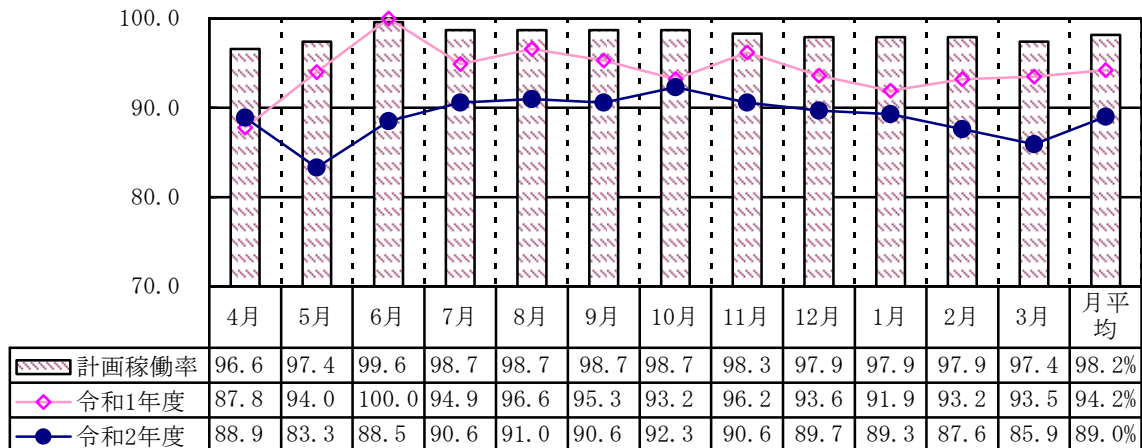
(単位:件数)



### 3. 介護保険担当者状況

(稼働率)

(単位:%)

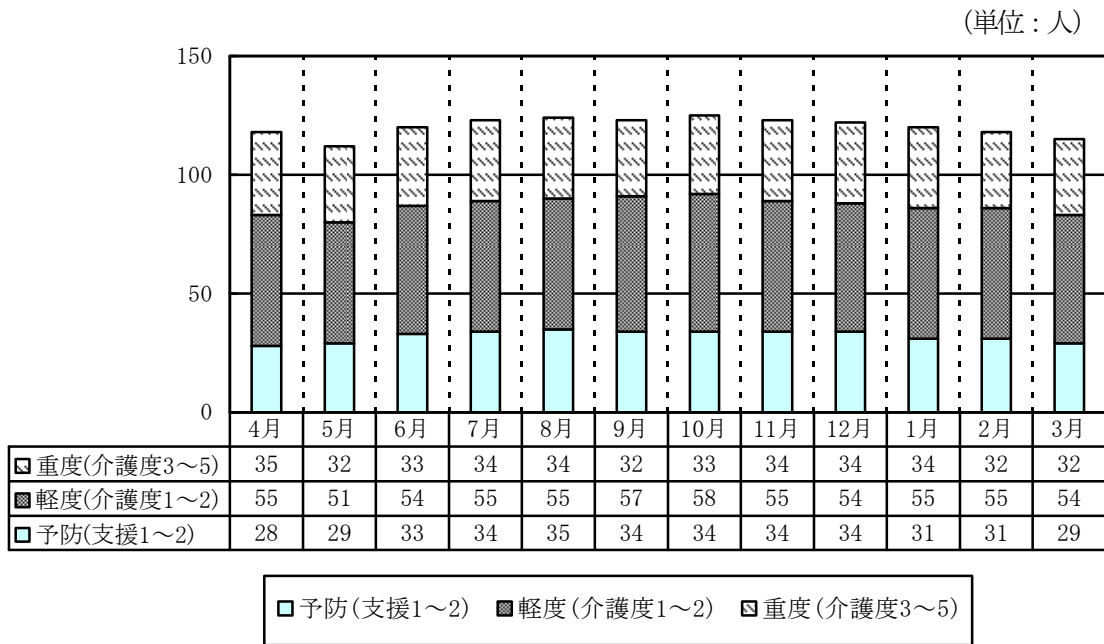


※稼働率について

介護給付管理を行える上限(1人あたり39人)に対して、給付管理をした人数の割合を表します。  
ただし、介護予防については、1件あたり0.5人とします。

$$\frac{(1057 \text{ 件} + (386 \text{ 件} \div 2)) \div 1404 \text{ 件}}{(1057 \text{ 件} + (386 \text{ 件} \div 2)) \div (3 \text{ 名} \times 39 \text{ 人})} = 89.0\% = \text{稼働率}$$

4. 区分別利用者状況



## 5. 事業報告(総括)

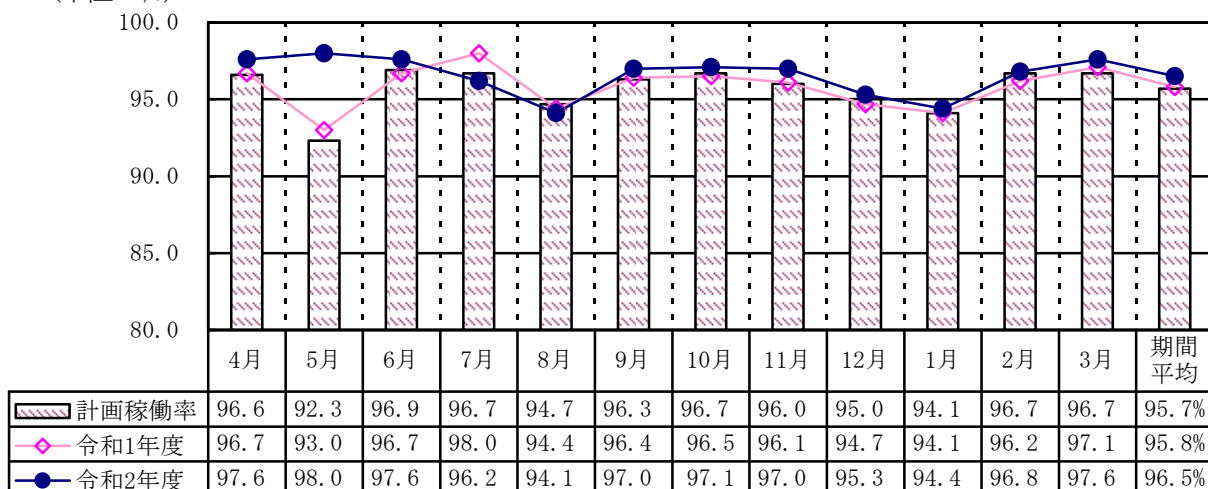
ご利用者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域にある介護保険サービスおよび保険外のサービスその他の制度について情報を把握し、ご利用者やご家族の状態や要望に沿って情報提供し必要なサービスが選択できるよう努めます。</li> <li>② 自立支援に向けた研修やケア会議に参加し支援方法を学び、実践していきます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 在宅サービス利用の方でも、状態の変化により他のサービスが必要と思われる場合は、地域密着型サービス、有料施設などの情報を提供し、ご利用者の状況にあったサービスにつなげることができた。</li> <li>② 包括支援センター主催の研修に参加し、自立に向けた支援方法や視点について学び、計画作成時役立てることができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の生活を支えるため、フォーマルなサービスのほかインフォーマルなサービスを計画に位置付けます。</li> <li>・自立した生活が送れるよう、ご本人ができる役割を計画に位置付けていきます。</li> </ul>

在宅で一日でも多く過ごせるよう、身体状況の悪化予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 入院など身体状況の変化につながった要因を分析し、悪化予防の計画作成に努めます。</li> <li>② ご利用者の身体状況の変化などを、医療機関やサービス事業所に発信し、状況に応じた対応を行います。また、関係機関からの情報収集に努めます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 過去1年間の主な入院となった要因を分析した。尿路感染や骨折が多く、水分補給の促しや環境の見直し等を行った。</li> <li>② コロナ禍で直接病院に出向くことができず、入院中の本人の状態把握が難しかった。しかし、医療相談員等を通じて、情報把握に努めた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の生活全体に目を向け、環境整備やサービスの提案を行っていきます。</li> <li>・感染予防策を講じながら、ご利用者の状態把握に努め、緊急時でもサービスを継続して利用できるよう努めます。</li> </ul>

## 5 障害者.共同生活援助事業(グループホーム)

### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



#### ※稼働率について

共同生活援助事業の1日定員(11人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,876日であったことから

$$\frac{3,876 \text{ 日}}{4,015 \text{ 日} \langle 11 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 0.9653 \text{ 稼働率 } 96.5\%$$

(延べ利用日数)                      (定員) (実稼働日数)

### 2. 障害区分別入所者数(令和3年3月31日現在)

	障害区分						平均
	1	2	3	4	5	6	
令和1年度	0	8	9	12	5	0	3.1
令和2年度	0	4	3	3	1	0	3.1

### 3. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
12月20日	クリスマス会	・各ホームで、クリスマスメニューの食事を行い、入居者にプレゼントを配った。
1月9日	団子さし	・各ホームにて団子を作り玄関に飾った。
2月3日	豆まき	・各ホームにて夕食に恵方巻を食べ、豆まきを行った。

### 4. 事業報告(総括)

ご利用者が地域住民の一人として生活が送れるよう支援します。	
取 組 事 項	① 地区行事や集会等に積極的に参加します。 ② 相談支援専門員や、日中活動事業所と情報の共有を図り、安心した生活が送れるよう支援します。
実 績	① 感染症予防のため、地区行事は中止となった。地区総会は、決定事項のお知らせが届いた。 地区よりゴミステーションの設置場所変更について依頼があり、グループホーム敷地内を提供し設置となった。 ② 相談員と定期的に情報交換を行うとともに、日中活動先と利用中の様子等、情報の共有を図った。
課題と今後の取組	・ 感染症予防から行事の中止や関わり方が変わってきたため、新しい生活様式に合わせた関わり方を検討し実施します。

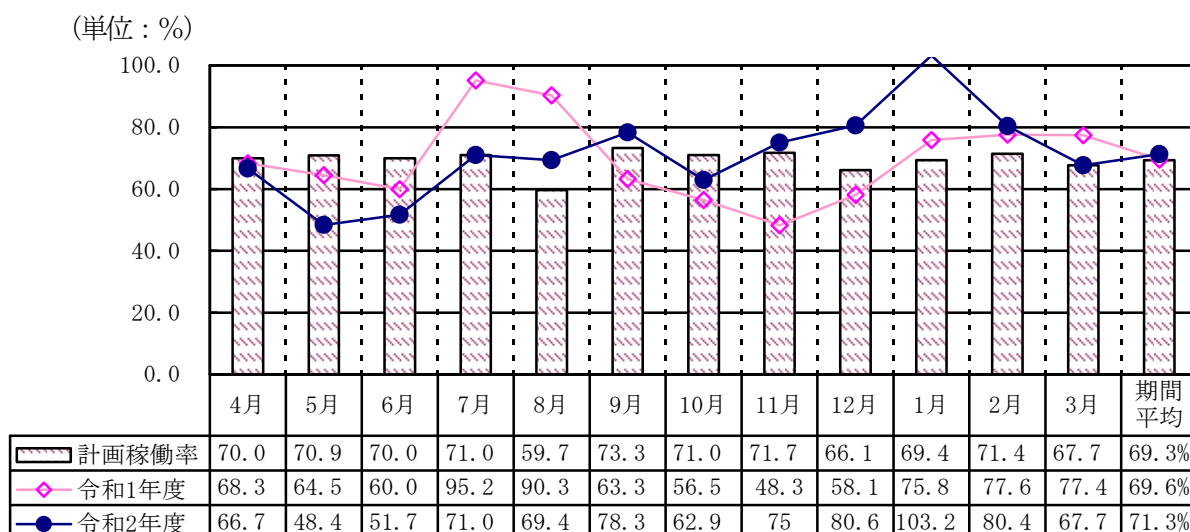
ご利用者との関りを多く持ち、その方の希望に添えるよう努めます。また、障害の特徴を理解した支援を行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員間の情報共有を密にし、ご利用者一人ひとりの生活状況と目標に沿った支援を行います。</li> <li>② 障害の特性に合った支援が行なえるよう、生活支援員や世話人の勉強会を実施するとともに、外部研修に参加する機会を増やします。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 業務日誌、職員間連絡ノートを活用する他、会議などで職員間の情報共有を図った。</li> <li>② 感染症予防ため、外部研修は実施せず会議等の時間を使い感染症や支援について勉強会を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の生活での会話や関わりを通し、希望や感じていることなどが引き出せるよう支援します。</li> <li>・ 勉強会は継続し、外部研修についてオンライン等で参加できるよう検討します。</li> </ul>

ご家族に安心していただけるよう情報発信に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご家族を招待したイベントの開催や、グループホームでの様子や出来事をご家族へ定期的にお知らせします。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 感染症予防のため、外部を招いたイベントの実施は控えた。帰省時のご家族との会話や定期的な連絡を行い、情報の発信を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループホームでの様子を定期的にお知らせできるよう、方法を再度検討し実施します。</li> </ul>



## 6 障害者短期入所事業(ショートステイ)

### 1. 施設利用稼働率



#### ※稼働率について

短期入所の1日定員(2人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が520日であったことから

$$\frac{520 \text{ 日}}{730 \text{ 日} (2 \text{ 人} \times 365 \text{ 日})} = 0.7127 \quad \text{稼働率 } 71.3\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

### 2. 障害区分別延べ利用日数

	児 童			成 人						計
	1	2	3	1	2	3	4	5	6	
令和1年度	0	0	16	0	86	279	71	67	0	519日
令和2年度	0	4	28	0	40	221	135	92	0	520日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	8	8	7	7	8	9	8	9	8	9	9	8	8.1人
延べ利用日数	40	30	31	44	43	47	39	45	50	64	45	42	43.3日

### 4. 平均障害区分及び平均利用日数

	児 童		成 人	
	平均支援区分	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均支援区分	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和1年度	3	1.3日	3.8	5.9日
令和2年度	7	0.9日	3.4	4.5日

5. 年間行事報告

行事については障害者共同生活援助部門と合同で開催した。

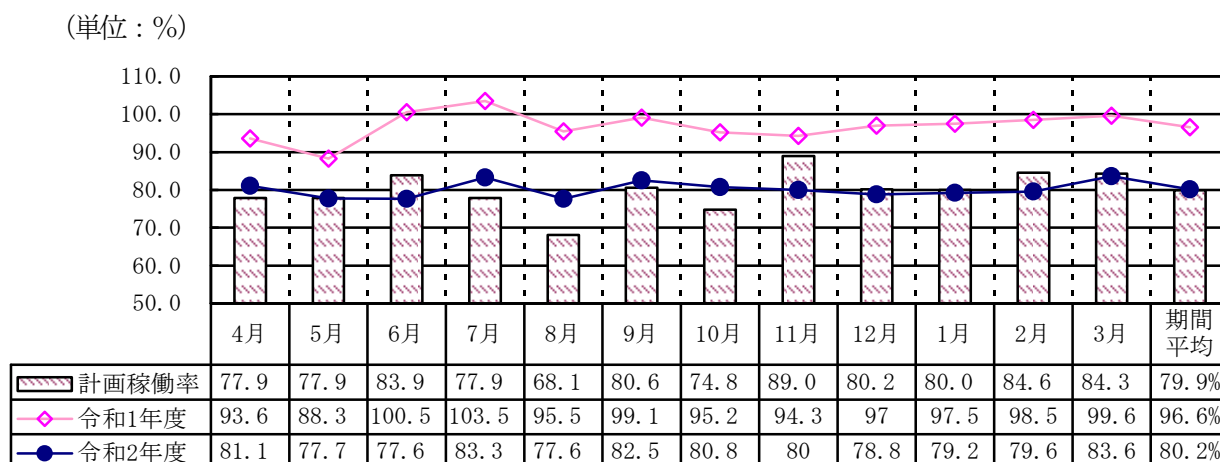
6. 事業報告(総括)

ご利用者、ご家族の希望を伺いながら、自宅で過ごす時と変わらない生活を送れるよう支援します。	
取組事項	① 自宅での生活リズムや習慣を理解し、利用時も同じような生活リズムで過ごせるよう支援します。 ② グループホームご利用者と一緒にイベントや地区の行事に参加していただき、地域との関りが持てるよう支援します。
実績	① 新規利用者についてご家族やご本人、関係機関から利用時の過ごし方について話を聞き、ご自宅での習慣などが宿泊時にも行えるよう職員間で情報共有を行い実施した。 ② 地区のイベント等中止となったため、参加できなかった。
課題と今後の取組	・ 今後も、自宅での習慣がホームでも取り入れられるよう検討し実施します。

日中活動事業所や関係機関と情報の共有を図り、利用ごとに変化があっても柔軟に対応が出来るよう支援します。	
取組事項	① 利用前に状況の確認を行い、状態に合わせた対応が行えるよう支援します。 ② 緊急的利用が必要となった方への対応も速やかに行えるよう体制を整えます。
実績	① 新規利用者の他、継続利用されている方についても定期的に情報を確認し、変更があればその都度可能な対応を行った。 ② 緊急での利用希望に対し、関係機関と調整を行いスムーズに対応をすることができた。
課題と今後の取組	・ 定期的に状態確認を行い変更があればスムーズに対応が行なえるよう検討します。

## 7 障害者生活介護事業

### 1. 施設利用稼働率



#### ※稼働率について

生活介護事業の1日定員(13人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が2,690日であったことから

$$\frac{2,690 \text{ 日}}{\text{(延べ利用日数)}} \div \frac{3,354 \text{ 日}}{\text{(定員) (実稼働日数)}} = 0.8020 \text{ 稼働率 } 80.2 \%$$

### 2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
令和1年度	0	306	801	1,052	319	10	2,488日
令和2年度	0	304	829	1,035	405	117	2,690日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	17	16	16	17	17	17	15	17	15	17	17	15	16.3人
延べ利用日数	232	212	222	249	212	236	231	218	215	206	207	250	224.1日

### 4. 平均障害区分及び平均利用日数

	成人	
	平均支援区分	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和1年度	3.68	12.95日
令和2年度	3.70	13.72日

## 5.年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
12月 25日	クリスマス会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真立て作りを行い、そこに飾れるよう、その日に撮った写真を持ち帰った。</li> <li>・ダイヤのクリスマスランチや大阪屋のケーキを食べた。</li> </ul>
1月 12日	団子さし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、感染症予防のため平堀サロンの方と交流ができなかった。</li> <li>・団子づくりから飾りまでご利用者で取り組み楽しまれた。</li> </ul>
3月 31日	感謝祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異動する職員とご利用者間で挨拶を行い、昼食は普段より豪華なダイヤのランチを楽しんだ。</li> </ul>

## 6. 事業報告(総括)

ご利用者のニーズ、障害の特性に基づいた小グループ化を図り、より充実した活動内容を設定します。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人ひとりの能力に合った活動が出来るよう、新しい活動内容の充実に努めます。</li> <li>② 作業の一連の流れを細分化し、ご利用者が自発的に取り組めるよう検討します。</li> <li>③ ご利用者の自主性を伸ばすため、自主的な活動に対しては時間をかけて見守りを行い、必要に応じて適切な支援を行います。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 今まで行ってきた、折り紙や貼り絵の活動を活かし、7月より「米袋から作った紙袋」を作成し、パンとおやつ 奥阿賀コンビリー様に販売して頂きました。また、麒麟山酒造様からシールの袋入れの作業を頂いたことで、多くのご利用者で袋入れを行うことができました。</li> <li>② 紙袋作成において、作業の細分化を行いました。細分化を行ったことで、紙袋製作に携わるご利用者が増えました。</li> <li>③ 自主的な活動を行うご利用者に対して、見守りを行いました。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症予防に取組みながら、今後もお利用者にあった活動内容の提供を行います。</li> </ul>

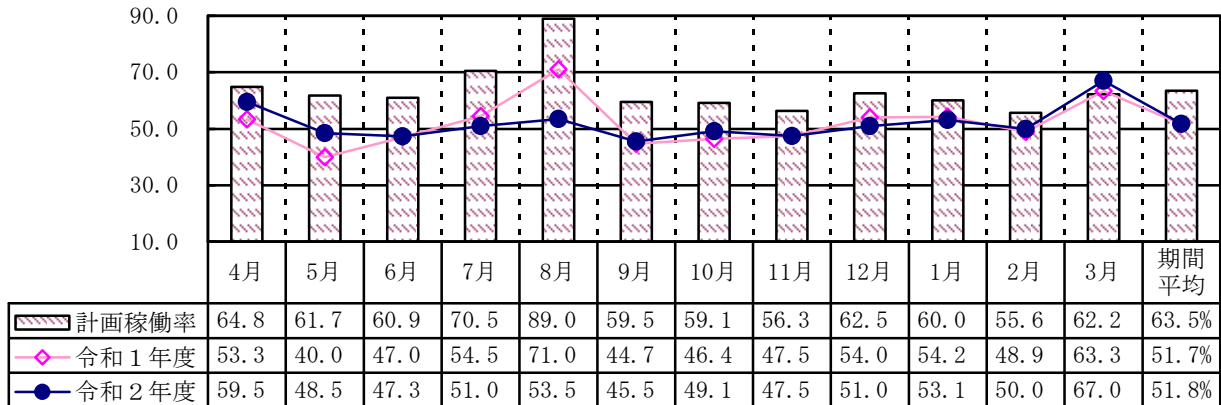
地域とのつながり、人との関わりを重視した支援を行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の方と関わりを持てるよう、積極的に園外活動や地域活動を行います。</li> <li>② 個別支援を行いながらも、人との関わりを意識できる活動内容を行います。</li> <li>③ 次年度に向け、外部の企業へ生活介護事業の内容を知ってもらうための広報活動を行うと共に、作業の受注に繋げられるように取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 空き缶を業者に出し、その金額を平堀サロンの方に伝えたところ、空き缶を持って来ていただける方が増えました。また、10月には地域の方からハロウィンのお菓子を家の庭に用意してもらい、小人数で頂きに行きました。</li> <li>② 感染症の予防に配慮しながら、納品や配達を行いました。その他の活動を行うことができませんでした。</li> <li>③ パンとおやつ奥阿賀コンビリー様や麒麟山酒造様から作業を頂くことができました。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方の役に立つ活動を検討していきます。</li> </ul>

ご利用者により良い支援を行うために必要な援助技術・法制度等の知識を学ぶことで、職員の資質向上を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 障害事業に求められている研修や、日常の支援に必要な援助技術の向上のための外部研修に参加します。</li> <li>② 日常的な問題や課題を共有し検討を行い、その中で職員の専門性を高めます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 外部研修の開催が少なく、今年度は参加することができませんでした。</li> <li>② 課題解決方法としてグループスーパービジョンを取り入れました。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、オンライン等を活用し外部研修への参加を増やし資質向上に努めます。</li> </ul>

## 8 放課後等デイサービス事業

### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



#### ※稼働率について

放課後等デイサービスの1日定員(10人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が1,248日であったことから

$$\frac{1,248 \text{ 日}}{2,410 \text{ 日} (10 \text{ 人} \times 241 \text{ 日})} = 0.5178 \quad \text{稼働率 } 51.8\%$$

(延べ利用日数)

(定員) (実稼働日数)

### 2. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	11	9	8	11	12	6	9	9	11	10	9	10	9.6人
延べ利用日数	125	97	104	107	107	91	108	95	102	101	90	121	104日

### 3. 平均障害区分及び平均利用日数

	児 童
	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和1年度	8.75日
令和2年度	10.85日

#### 4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
10月30日	ハロウィン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭にお菓子をぶら下げてくれる地域の方宅へ伺い、お菓子を頂いて来た。</li> <li>・事業所内では、ご利用者個々に合わせた地図をもとに宝探し形式でおやつ探しを行った。</li> </ul>
12月25日	クリスマス会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午後から、ご家族に宛てたクリスマスカードを作成し、おやつの時間にプレゼントを渡した。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響で、予定していたおやつ作り、昼食づくり等が出来なかった。</li> <li>・季節に合わせ、子供たちが楽しめる活動を行った。</li> </ul>	

#### 5. 事業報告(総括)

児童の持つ課題や保護者のニーズを把握し、一人ひとりの状態に合わせた適切な支援を行います。	
取 組 事 項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① アセスメントシートによる個々の状態や課題の把握を職員全体で行います。</li> <li>② 子供たちの生活状況、家庭環境の変化などに対して速やかに対応できるよう、家庭や学校などの関係機関との情報共有を図ります。</li> <li>③ 支援に必要な援助技術向上のための研修に参加します。</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 利用児童の再アセスメントを行うことで、個々の状況や課題を職員間で共有することができました。</li> <li>② とこなみでの変化を関係機関に情報提供し、相談をしながら対応しました。 毎月、とこなみでの児童の様子や取り組みを紹介したお便りを作成し保護者に配布しました。</li> <li>③ 一日のスケジュールの変更を行い、学習、遊び及び活動において、子どもたちが「自分で選択する」「自分から行動できる」「ルールを守れる」よう支援しました。</li> <li>④ 研修への参加がほとんどできませんでした。</li> </ol>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の成長に応じた課題や将来の見通しを、保護者や関係機関と相談しながら、より個別に対応していきます。</li> <li>・ 一人ひとりに合わせた伝え方で、感染症予防に取り組めます。</li> <li>・ 職員としての資質向上、技術向上に向けたウェブ研修への参加と事業所内でのミニ研修を行います。</li> </ul>

子供たちの成長の段階に応じた切れ目のない支援と働きかけを行います。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 放課後等デイサービスがどのような事業であるのかを広く認知していただけるよう、地域の方、学校、学童クラブ等の関係機関に伝えて行きます。</li> <li>② 子供たちの変化や事業所での取り組みを多くの方に知っていただけるよう、広報誌を発行します。</li> <li>③ 児童の卒業後のニーズを視野に入れた支援計画を作成します。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 障害者週間に「とこなみ」の取り組みをパネルで展示し活動を紹介することができました。</li> <li>② 自立支援協議会療育部会を通し、児童クラブ関係者と協力支援に向けた取り組みや課題の共有を図りました。</li> <li>③ 長期休み前に、各学校の先生と児童についての情報共有と、宿題の取り組み方でのお互いの役割を話し合いました。今後も継続して話し合いを行うこととなりました。</li> <li>④ 児童の将来も視野に入れ、楽しみながら行える作業的な活動を取り入れました。</li> <li>⑤ 特別支援学校高等部卒業後の利用者が、放課後等デイサービスを利用しながら、卒業後の進路へ向けての体験や実習を行うことで、就労継続支援B型事業への利用がスムーズに行えました。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き放課後等デイサービスを知ってもらえるよう、広報紙などを定期的に発行し広報活動に努めます。</li> <li>・自立支援協議会療育部会を通し、関係機関との協力支援の在り方を検討します。</li> </ul>



## 9 東蒲の里研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項 目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための基本所作研修
		新型コロナウイルス感染症予防研修(ウェブ)
		喀痰吸引等研修
		医療・介護連携強化に向けた特定給食施設等研修会
		安全運転管理者等講習
		新潟県老施協 管理者講習会(ウェブ)
		在宅介護サービス提供者に向けた高齢者栄養講座
		要保護児童対策地域協議会実務者研修
		自立支援介護 Web 研修会(ウェブ)
サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修		

## 2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症、食中毒予防について</li> <li>・疾患、ご利用者の緊急対応研修</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	※新型コロナウイルス感染 予防対策のため集合研 修は行わず、資料を基 に職員個々に行う自主 研修形式で実施した。
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔、栄養、褥瘡ケアについて</li> <li>・腰痛予防について</li> <li>・身体拘束について</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急法講習</li> </ul> ※感染症予防のため中止	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルスについて</li> <li>・プライバシー保護について</li> <li>・苦情について</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令遵守について</li> <li>・個人情報保護について</li> <li>・高齢者、障害者虐待防止について</li> </ul>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防と吐物処理について</li> <li>・緊急時の事故対応について</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復命会(外部研修)</li> <li>・看取り介護について</li> <li>・身体拘束について</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件事例検討、事故検証について</li> <li>・医療的ケアについて</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡ケアについて</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年目研修の取り組み内容と成果 発表</li> <li>・危険予知トレーニング</li> </ul>	

※7月、9月は法人合同で実施する予定であったが、感染症予防のため中止した。

### 3. 研修報告(総括)

#### ① 外部研修

- ・コロナ禍で研修の在り方も変わり、Web 研修会が主流となった。その中で、新型コロナウイルス感染症防止のための研修や介護力向上研修等も Web で参加し、技術の習得に努めた。
- ・障害者福祉事業においても、知識の習得や事例検討などの実践的な研修に参加した。

#### ② 内部研修

- ・新型コロナウイルス感染症防止のため、集合研修は行わず、資料配付や動画視聴の研修を取り入れ、全職員が視聴した日付を確認した。

## 10 東蒲の里 ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

## 11 東蒲の里 災害対策

### 1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
10月1日	〈東蒲の里〉 日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後 消火訓練を行った。	5名 (職員)
3月8日	〈とこなみ〉 日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後 消火訓練を行った。	10名 (職員)
3月27日	〈あかり・たいよう〉 日中を想定した避難訓練を行った。	2名 (職員)
3月31日	〈東蒲の里〉 地震発生時対応訓練 災害発生時における火災を想定し利用者の安否確認 や建物被害の確認方法についての訓練を行った。	8名 (職員)

### 2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
6月18日	〈東蒲の里〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの 点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月4日	〈とこなみ:旧 鹿瀬保育園〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器などの点検を行い、点検 結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月9日	〈東蒲の里〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの 点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月10日	〈とこなみ・あかり・たいよう〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器などの点検を行い、点 検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

## 12 東蒲の里 苦情受付・対応報告

### 苦 情

<短期>

#### 1. 担当介護支援専門員より

電話にて、「家族から、寒くて雪も降っているのに股引を履かないで帰ってきた。荷物には入れており、帰ったときは鼻水も出ていた。来月は頼めない。と家族は憤慨していた。改善して欲しい。」と話された。

- ・入所時の利用者の様子や荷物を記載する様式について、入所時の服装を記載する欄を追加した。
- ・職員に一般的なモラルについて注意喚起を行った。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

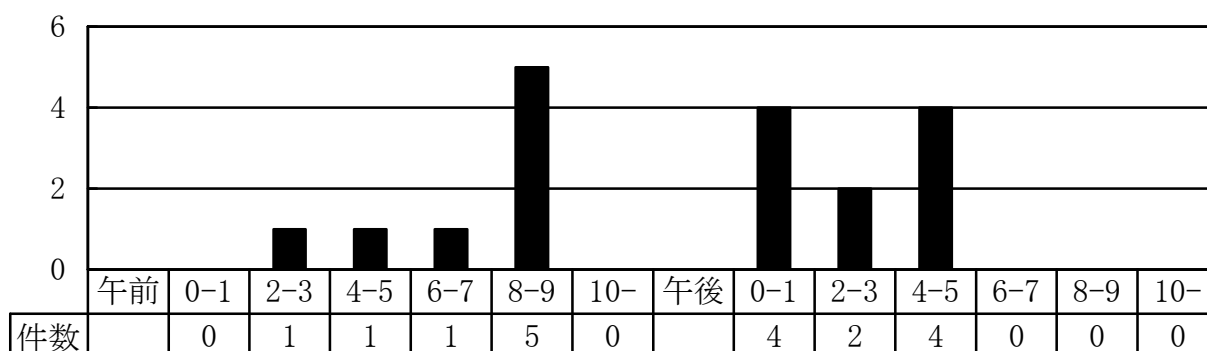
事 業	件数
特 養	0 件
短期入所	1 件
通所介護	0 件
居 宅	0 件
合 計	1 件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0 件
職 員 の 態 度	0 件
サ ー ビ ス の 質	1 件
サ ー ビ ス の 量	0 件
権 利 侵 害	0 件
そ の 他	0 件
合 計	1 件

## 13 東蒲の里 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 18 件〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	5件
食堂・ダイルーム	3件
トイレ	1件
廊下・玄関	3件
浴室	0件
施設外	5件
その他	1件
合計	18件

### 3. 内容別発生件数

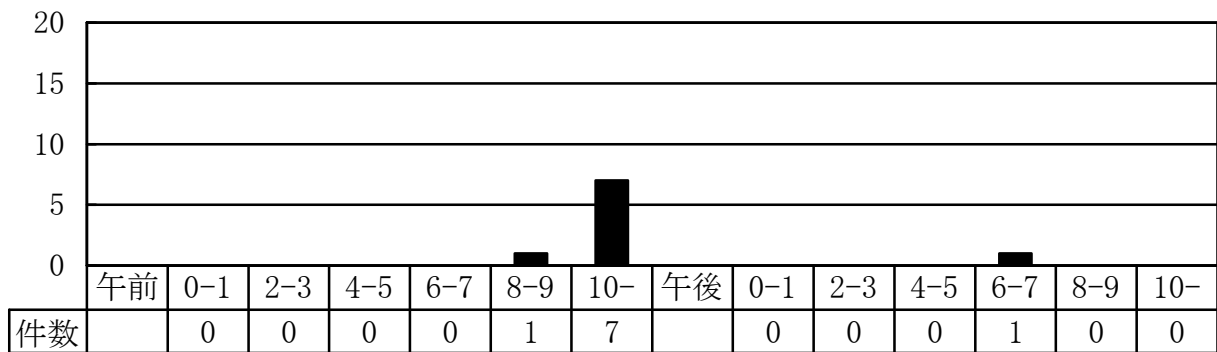
事故内容	件数
転倒・転落	7件
裂傷・火傷	0件
打撲・皮下出血	1件
チューブ抜去	1件
私物紛失	0件
無断外出	0件
異食・誤飲	0件
誤薬	3件
車輛事故	4件
その他	2件
合計	18件

#### 4. 事故報告

- ・令和元年度と比較して、約7割減少した。(令和元年度63件)。ヒヤリハット報告書においても事故報告書と同じように原因の分析を行い、具体的な改善策を実施することで、ヒヤリハット事例の再発を防ぎ、事故の発生件数が減少したと思われる。

## 14 となみ 事故等発生状況報告

### 2. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 9 件〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	0 件
食堂・ダイルーム	7 件
トイレ	0 件
廊下・玄関	0 件
浴室	1 件
施設外	1 件
その他	0 件
合計	9 件

### 3. 内容別発生件数

事故内容	件数
転倒・転落	1 件
裂傷・火傷	1 件
打撲・皮下出血	0 件
破損	0 件
私物紛失	0 件
無断外出	0 件
異食・誤飲	0 件
誤薬	3 件
車輛事故	1 件
その他	4 件
合計	10 件



#### 4. 事故報告

- ・共同生活援助では配薬の間違が多くあったため、チェック表を作成し対応をしている。
- ・生活介護、放課後等デイサービスでは、利用者間トラブルのヒヤリハットが増えているため、今後の事故防止に努めていく。

### Ⅲ 令和2年度社会福祉法人東蒲原福祉会

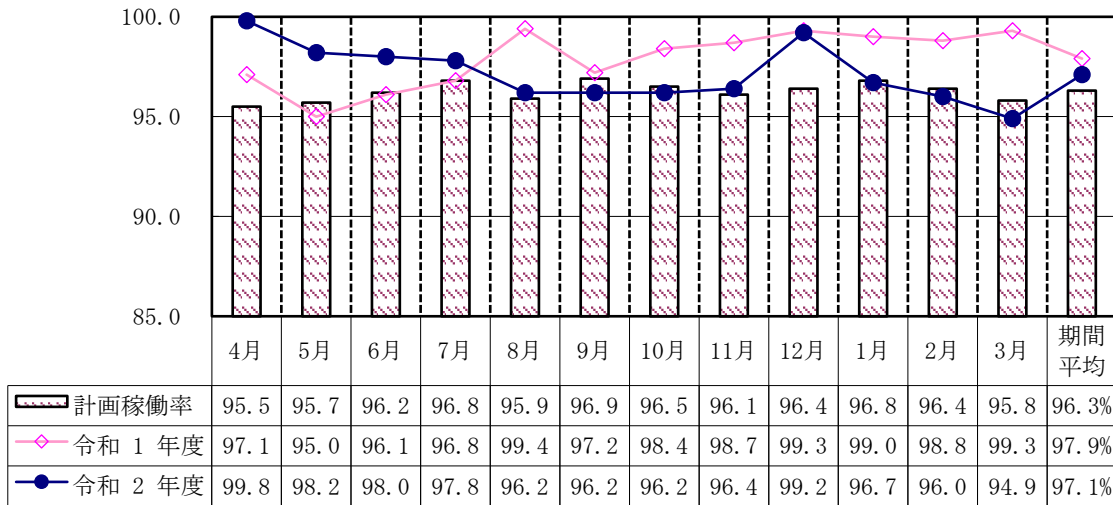
#### 東蒲の里みかわ園 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	3 9
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	4 3
3. 通所介護事業（デイサービス）	4 7
4. 通所型サービスA（基準緩和型）	5 1
5. 高齢者生活支援ハウス	5 2
6. 新潟水俣リハビリモデル事業	5 3
7. 外出支援サービス事業	5 4
8. 東蒲の里みかわ園研修報告	5 5
9. 東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	5 7
10. 東蒲の里みかわ園災害対策	5 7
11. 東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	5 8
12. 東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	5 9

# 1 介護老人福祉施設

## 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,720日であったことから

$$\frac{17,720 \text{ 日}}{18,250 \text{ 日 (50人} \times 365 \text{ 日)}} = 0.9709 \quad \text{稼働率 } 97.1\%$$

(延べ利用日数)                      (定員)      (実稼働日数)

## 2. 要介護度別入所者数(令和2年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
令和 1 年度	0	1	5	23	21	4.28
令和 2 年度	0	1	4	26	19	4.26

## 3. 要介護度状態の変化(令和3年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	2人
維持	43人
悪化	5人
合計	50人

#### 4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4 月	お 花 見	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
6 月	団子作り	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
6 月 22 日 7 月 7 日	七 夕 会	・短冊に願いを書いて笹に飾り付を行った。
7 月 28 日	三 涼 祭	・新型コロナウイルス感染対策のため、実施せず、季節感を味わえる食事を楽しんでいただいた。
9 月 17 日	敬 老 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典及び祝宴は実施せず、賀寿のお祝いの方に花束をプレゼントし、記念撮影を行った。
12 月 24 日	忘 年 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、行事内容を縮小し、クリスマスの飾りつけや行事食を楽しんでいただいた。
12 月	手打ちそば会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
1 月 1 日 ～3 日	お 正 月	・お汁粉や甘酒でお正月を迎えていただいた。
2 月 12 日	節 分	・新型コロナウイルス感染対策のため、豆まきは行わず、節分にちなんだおやつを食べ楽しんでいただいた。
3 月 3 日	ひな祭	・甘酒やお菓子でひな祭りの雰囲気を感じてもらった。

5. 事業報告(総括)

ご利用者ケアの質の向と職員の腰痛予防に努めます。	
取組事項	<p>① ご利用者の残存機能を活かした安全安心な移乗動作を行うため、また職員の腰痛予防ができるよう人力のみでの移乗をやめ、福祉用具を有効的に活用する「ノーリフトケア」に取り組みます。</p> <p>② 専門職の指導のもと「認知症ケア」とは何かを職員一人ひとりが理解し、ご利用者が自分らしく生活できるよう根拠に基づいた自立支援に取り組みます。</p>
実績	<p>① スライディングボードやリフトなどの福祉用具の使用方法を周知し、使用することにより職員の腰痛予防やご利用者の残存機能を活かすことができた。</p> <p>② 認知症ケアについて統一したケアができるよう実践の場面で、その都度職員へ対応方法等の説明を実施した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別援助方法の一覧を継続して作成し、新任職員の育成に取り組む。</li> <li>・現在、認知症があるご利用者の中で対応が困難な方の行動を再度分析して、個別的ケアに活かす。</li> <li>・移乗リフトの数を増やし、必要なご利用者に使用できるようにする。</li> </ul>

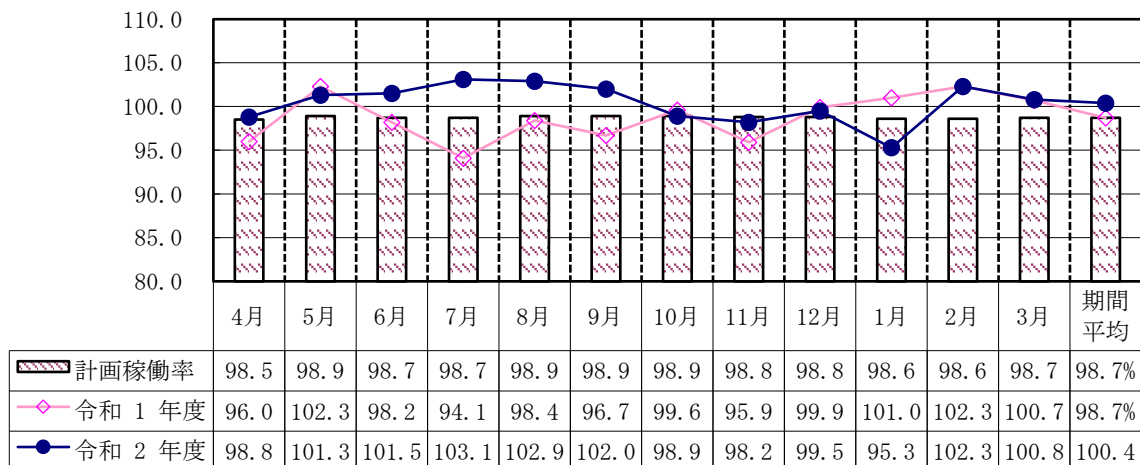
ご利用者の重度化予防に努めます。	
取組事項	<p>① 介護職員の喀痰吸引資格の取得を進めて医療的ケアの向上に努め、多職種協働で水分摂取量や栄養状態を管理し、ご利用者の体調維持及び異常の早期発見、早期対応に取り組めます。</p>
実績	<p>① ご利用者個々における動作、食事・水分摂取量と体重の推移を観察し、食事以外での栄養補給が必要なご利用者への個別対応を実施することができた。吸引の重要性を再度周知した。介護職員における吸引実施記録の確認を看護職員が行い、実施状況の把握と確実な吸引の実施により、肺炎等を予防することができた。</p> <p>② 利用者個々の観察項目を周知し、体調不良時に早期に対応することができた。</p>

地域に開かれた施設を目指します。	
取組事項	<p>① ボランティアの受け入れや地域行事に参加して、住民の方々と情報交換を行い、ご利用者が社会交流の機会を持てるよう取り組みます。</p> <p>② 家族相談会（勉強会）を開催し、施設の取組み等の説明やご家族との意見交換を行います。</p>
実績	<p>① 新型コロナウイルス感染対策のため、ボランティアの受け入れや地域行事の参加はできなかった。面会制限により iPad を使用してのオンライン面会や、阿賀町のテレビ電話での面会を実施した。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染対策のため、ご家族を招くことができず、実施できなかった。</p>
課題と今後の取組	<p>・ 今後はPC や iPad を使用するなどして、ご家族や地域の住民の方との交流を検討する。</p>

## 2 短期入所生活介護事業

### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・短期入所の1日定員(20人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,327日であったことから

$$7,327 \text{ 日} \div 7,300 \text{ 日} \langle 20 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle = 1.0036 \quad \text{稼働率 } 100.4\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

※稼働率が100%を超えている理由について

・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 1 年度	38	110	57	1,793	1,348	851	1,536	1,493	7,226 日
令和 2 年度	40	154	115	1,383	1,791	1,277	1,204	1,363	7,327 日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	48	49	45	48	49	49	45	46	47	48	48	48	48 人
延べ利用日数	591	624	605	635	634	608	613	589	617	591	573	625	609 日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和 1 年度	1.33	3.41 日	2.82	9.74 日
令和 2 年度	1.47	5.08 日	2.90	13.57 日

#### 5. 要介護度状態の変化(令和3年3月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	2 人
維 持	7 人	33 人
悪 化	0 人	6 人
合 計	7 人	41 人

#### 6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
7月28日	三 涼 祭	・新型コロナウイルス感染対策のため、実施せず、季節感を味わえる食事を楽しんでいただいた。
9月15日	敬 老 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典は行わなかったが、行事食を提供して賀寿の方々の記念写真を撮り、ご家族に渡し喜ばれた。
12月16日	忘 年 会	・行事食やお汁粉を食べていただき、ゲームをして楽しんでいただいた。
1月1日 ～3日	お 正 月	・お汁粉や甘酒、福笑いなどを楽しみ、お正月気分を感じていただいた。
2月3日	節 分	・新型コロナウイルス感染対策のため、豆まきは行わず、節分にちなんだおやつを食べて楽しんでいただいた。



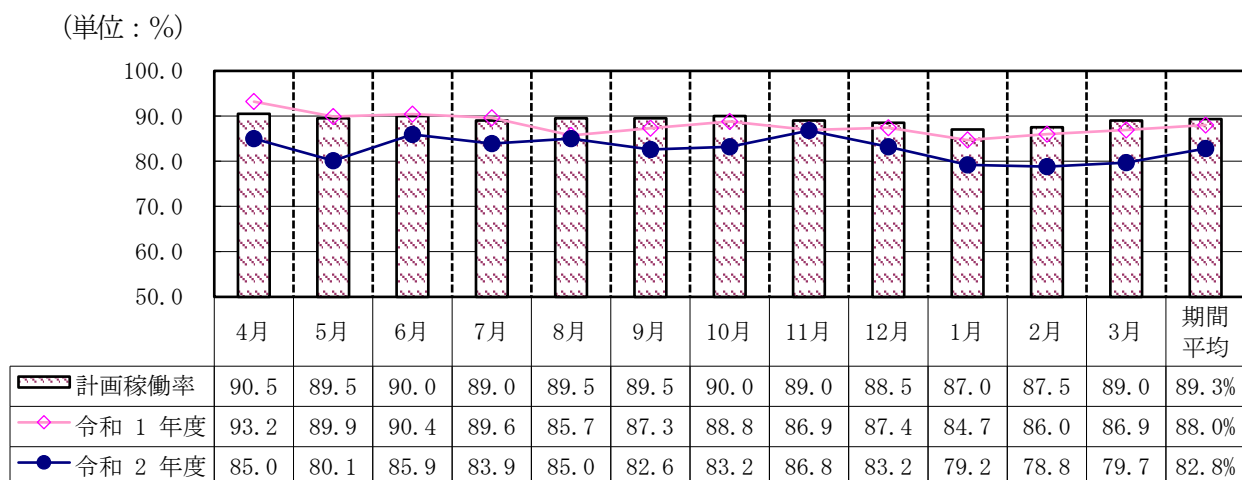
## 7. 事業報告(総括)

ご利用者から選ばれる施設を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご家族や各関係機関等が施設での利用状況と支援内容が把握できるように、毎月「利用者状況報告」を居宅介護支援事業所へ提出する。</li> <li>② 施設入所待機中の方や、在宅介護が困難な方が希望する期間を利用できるよう、当法人内の短期入所サービスと連携して利用調整を図り受入れができるよう取り組みます。</li> <li>③ 当法人内の訪問介護サービス及び併設のデイサービスと連携し、共通利用されているご利用者の体調管理を行い安心してサービスを利用しながら元気に在宅生活が継続できるように取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎月「利用者状況報告」を居宅介護支援事業所へ提出することで各関係機関との情報の共有ができています。また、サービス担当者会議の際にも活用でき、施設でのサービス内容を把握してもらうこともできた。</li> <li>② 入院中で退院許可がでて在宅復帰が困難な方や、介護者の介護負担の軽減を、当法人内の短期入所サービス3事業で利用調整することで受入れができ、サービス利用に繋がっている。</li> <li>③ ご利用者の方の体調や家族の意向等を訪問介護サービスやデイサービスと情報の共有を図り、担当介護支援専門員へ情報提供することで、ご利用者が在宅生活を継続できるサービス提供に繋がっている。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も「利用者状況報告」を活用して、施設でのサービス内容を知ってもらうことで選ばれる施設となり、新規利用者の獲得へと繋げていく。</li> <li>・ 在宅生活の継続が難しくなってきた方については、担当介護支援専門員を通じて、短期入所サービスでの利用調整会議に他のサービスも交えて利用調整し、阿賀町での在宅生活の継続を支援する。</li> </ul>

基本的ケアの徹底に努め、介護技術の向上を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個々のニーズに応じたケアの実践と、ご利用者自身が日常の中で選択しながら自分らしく生活ができるよう自立支援に努めます。</li> <li>② 認知症の方や重度の方の援助方法を再確認して、医療機関との連携と根拠に基づいた援助を実践し、重度化の予防に取り組みます。</li> <li>③ 重度の方や看取り介護を希望される方が安心して利用していただけるよう事業所内外の研修に参加し、医療的ケアの質の向上に取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者が生活しやすい環境を整備し、ニーズに応じたケアが実践できた。</li> <li>② 医療機関との連携を図り、根拠に基づいた援助を行ってきたことご利用者の状態維持に繋がり、また重度の方のサービス利用に結びつけることができた。</li> <li>③ 感染症の流行により研修には参加できなかったが、看取り介護を希望された方が安心して利用していただけるよう関係機関と検討会を開催して、対応の方向性を統一し、情報を共有することができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も、ご利用者のニーズに応じた環境やケアについて創意工夫を重ねていく。</li> <li>・ 重度の方の受入れがスムーズにできるように医療機関との連携と、情報の把握を積極的に行っていく。</li> <li>・ 看取り介護希望者の受入れにあたり、事業所内外の研修に参加しサービスの向上を図る。</li> </ul>

### 3 通所介護事業

#### 1. 施設利用稼働率



#### ※稼働率について

・通所介護事業の1日定員(22人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が6,021日であったことから

$$\frac{5,662 \text{ 日}}{6,842 \text{ 日} (22 \text{ 人} \times 311 \text{ 日})} = 0.8275 \quad \text{稼働率 } 82.8\%$$

(延べ利用日数)                      (定員)                      (実稼働日数)

#### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 1 年度	39	468	584	2,044	1,046	832	608	400	6,021 日
令和 2 年度	42	654	419	1,747	1,070	505	594	631	5,662 日

#### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	67	64	63	60	62	60	66	59	65	63	64	65	63 人
延べ利用日数	486	458	491	498	486	472	494	477	494	417	416	473	472 日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和 1 年度	1.55	5.26 日	2.45	8.89 日
令和 2 年度	1.39	5.16 日	2.40	8.34 日

5. 要介護度状態の変化(令和3年3月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	3 人
維 持	18 人	39 人
悪 化	1 人	3 人
合 計	19 人	45 人

※基準該当(障害者)1名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4 月	お花見会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
7月2日 ~7日	七 夕	・短冊に願いを書き飾り付けを行った。
9 月	敬 老 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
12 月	そば打ち	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。

## 7. 事業報告(総括)

安心して利用していただけるよう、ご家族との連携に努めます。	
取組事項	① 当法人内の訪問介護サービス及び短期入所サービスと連携してご利用者をサポートし、安心を守る体制を整え、ご家族とのコミュニケーションを大切にして、精神的支援に努め、またご家族との懇談会を企画し、知識や技術の提供と活動状況の報告を行います。
実績	① 各サービスの担当職員と情報を共有し、利用予定日を都合でキャンセルした場合、家族からの希望を取り入れ、代替え利用ができるよう提案する取組みができた。ご家族から自宅での様子を聞き取り、ご利用者のADLの変化、健康面や不応行動への対処方法などの相談を受け、職員が助言を行ったことで課題の早期発見に繋がった。またご家族の不安の軽減に繋がり、信頼関係を築くことができた。
課題と今後の取組	・ 在宅生活が継続できるよう、生活面での心配ごとに対し、担当職員がご家族と情報共有ができる体制をつくる。

生活能力向上や意欲向上に向けた認知症ケアに努めます。	
取組事項	① 認知症専門職員が知識を活かし、症状別の根拠に基づいた認知症ケアを実践します。 ② 目的や役割を持つことで、生きがいを持って参加できるよう認知症ケアプログラムに取り組みます。
実績	① 認知機能予防のためのプログラムを作成し、取り組みやすい環境を整えた。 ② ご利用者が交流する中でコミュニケーションがとりやすいよう支援することで、仲間意識を育み、落ち着いて過ごせる居場所の提供ができた。 ご利用者個々へ認知刺激となるよう、脳活性化トレーニング、創作活動、機能訓練器具等を活用して、回想、運動、ADL 練習などを導入。物事に集中して取り組める時間を設けたことで、自宅では何もしない、落ち着かない方が活動に興味を示す等、認知症状が緩和する効果がみられた。
課題と今後の取組	・ 意欲を引き出すレクリエーション、趣味活動プログラム内容の選択肢を増やし、またトレーニングの効果についての PR 活動に取り組み、新規利用者を増やしていく。 ・ 外部研修に参加し、ご利用者に効果的な対応方法や認知症対応の専門性を高めていく。

効果的な機能訓練を実践し、ご利用者ご家族の生活をささえられるよう努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 多職種協働でアセスメントに基づく機能訓練計画を作成し、PDCAにより機能訓練を実践していきながら、効果を実感していただけるように取り組みます。</li> <li>② ご利用者のニーズを把握し、ご利用者やご家族に機能訓練の効果について丁寧な説明を行い、意欲的に機能訓練が行えるよう取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 理学療法士から指導を受けた知識を活かし、下肢機能の向上を目標とした「移動(歩行)」に関する個別の機能訓練メニューを職員に周知して取り組んだ。</li> <li>② 評価を通して訓練の実施状況やリハビリ内容をご家族に説明することができた。また機能訓練指導員を中心とした評価、見直しを継続して取り組んだことで、ご利用者が意欲的に訓練に参加されるようになった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメントの重要性を再認識し、ご利用者一人ひとりの希望や生活環境の把握を丁寧に行っていく。自宅での生活機能向上が図れるよう、今後ご利用者の意欲を引き出し、今までに専門職から学んだことを活かして技術の向上に取り組む。</li> </ul>

#### 4 通所型サービスA(基準緩和型)

##### 1. 通所型サービス利用状況

	新規登録者数	登録者数	登録終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	0	11	0	4	35	8.8
5月	0	11	1	4	22	7.3
6月	0	10	0	4	35	8.8
7月	1	11	0	4	41	10.2
8月	0	11	0	3	42	10.5
9月	0	10	0	4	37	9.3
10月	0	11	1	4	31	7.7
11月	1	11	0	4	31	7.7
12月	0	10	1	4	31	7.7
1月	0	9	2	3	15	3.8
2月	0	8	0	4	15	3.8
3月	0	8	0	4	23	5.7
年間統計	2人		5人	47日	358人	7.6

## 5 高齢者生活支援ハウス

### 1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数
4月	0	0	7	10月	0	1	7
5月	1	1	7	11月	0	0	7
6月	0	0	7	12月	0	0	7
7月	0	0	7	1月	0	0	7
8月	1	0	8	2月	0	0	7
9月	0	0	8	3月	0	0	7
				合計	2人	2人	7人

### 2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流や地域との交流のため、行事の企画と参加を支援した。

月 日	行 事
7月 24日	暑気払い
9月 18日	敬老 月見会
12月 25日	クリスマス会
1月 15日	小正月 だんご飾り
2月 2日	節分豆まき
3月 1日	ひな祭り
3月 19日	お彼岸 茶話会

### 3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	利用入居者数
デイケア	2人
デイサービス・訪問介護	2人



## 6 新潟水俣リハビリ事業

### 1. 「らっくり体ケア教室」利用状況

	新規登録者数	登録者数	終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	0	66	0	0	※新型コロナウイルス感染予防対策のため休止。	
5月	1	67	0	0		
6月	0	67	0	22	236	10.7
7月	3	70	1	21	213	10.1
8月	0	69	0	18	160	9.8
9月	0	69	2	20	187	9.3
10月	0	67	1	22	210	9.5
11月	0	66	0	19	174	9.1
12月	2	68	0	20	184	9.2
1月	0	68	0	18	128	7.1
2月	2	70	0	18	171	9.5
3月	0	70	0	15	158	10.5
年間	8人		4人	193日	1,821人	9.5人

### 2. 交流会行事実施報告

月別	実施行事	内容
7月6日 ～10日	七夕会	・短冊を書いて飾り、七夕にちなんだお菓子を美味しくいただいた。
8月24日 ～28日	お楽しみ会	・豆腐を使って作ったお団子にゴマやきな粉、あんこをつけて美味しくいただいた。
9月10日 ～26日	敬老会	・舞茸の炊き込みご飯を作り美味しくいただいた。
10月26日 ～30日	ハロウィン	・カボチャを使ったホットケーキ作りを行い、美味しくいただいた。
11月16日 ～20日	お楽しみ会	・サツマイモご飯を作り、美味しくいただいた。
12月21日 ～25日	クリスマス会	・職員がデコレーションしたケーキを参加者が切り分けて美味しくいただいた。千本釣りゲームを楽しみながらプレゼント交換を行った。
2月1日 ～5日	節分豆まき	・感染対策を行いながら職員が鬼となり、豆まきを行った。

※6月・10月に計画していた温泉ツアーは、新型コロナウイルス感染予防のため、中止した。

## 7 外出支援サービス事業

### 1. 外出支援事業利用状況

実績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実績
利用件数		7	5	5	4	4	6	8	6	4	6	7	5	67件
地域	郡内	5	5	5	3	4	5	7	6	3	4	7	4	58件
	郡外	2	0	0	1	0	1	1	0	1	2	0	1	9件

### 2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	68件	60件
入院移送	1件	1件
退院移送	5件	5件
外出移送	1件	1件

月平均利用件数	5.5件
一件の平均距離	55.1 km
一件の平均所要時間	3.1 時間

## 8 東蒲の里みかわ園 研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び、対人援助に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	医療・介護連携強化に向けた特定給食施設等研修会
		喀痰吸引等研修
		安全運転管理者等講習
		介護支援専門員更新研修
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修第1回研修会(ZOOM)
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修第2回研修会(ZOOM)
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修第3回研修会(ZOOM)
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修第4回研修会(ZOOM)
		上級リスクマネージャー養成講座(ZOOM)
		社会福祉法人会計基準実践的基礎講習(ZOOM)
そ の 他	情報管理説明会など	介護認定審査会委員研修
		新潟水俣病ケアガイド研修会
		指定障害施設サービス事業者等集団指導
		令和2年度国勢調査説明会

## 2. 内部研修参加状況

※新型コロナウイルス感染予防対策のため集合研修は行わず、資料や動画を基に職員が個々に行う自主研修形式で実施した。

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
5月17日 ～5月26日	・食中毒について ・身体拘束・高齢者虐待について	※新型コロナウイルス感染予防対策のため集合研修は行わず、資料や動画を基に職員個々に行う自主研修形式で実施した。		
6月15日 ～6月25日	・褥そう予防について ・災害マニュアルについて			
7月	・救急法講習 ※感染症予防のため中止			
8月22日 ～8月27日	・リスクマネジメントについて ・認知症ケアについて			
9月11日 ～9月25日	・法令遵守について ・個人情報保護について ・虐待防止について			
10月16日 ～10月22日	・メンタルヘルスケアについて			
11月13日 ～11月26日	・口腔ケアについて ・感染症対策実践について			
12月18日 ～12月26日	・腰痛予防について ・安全で負担の少ないトランスファーについて			
1月14日 ～1月28日	・防災マニュアルについて ・ターミナルケアについて			
2月25日	・身体拘束・高齢者虐待について ・リスクマネジメントについて			

※7月、9月は法人合同で実施する予定であったが、感染症予防のため中止した。

## 3. 研修報告(総括)

### ① 外部研修

- ・感染症の流行もあり、外部からの講師による研修を中止した。
- ・救急法は人数が多く三密を避けられない為、中止した。

### ② 内部研修

- ・感染対策により、集まったの研修が行えないため、資料の配布やwebを利用した研修となったが、各委員会の問題形式にして読む、見る、だけでなく、考えて答えを記入するなど、今までの研修とは違った形式で実施できた。
- ・予定していた3年目研修発表は、昨年の対象職員と一緒に、コロナウイルス対策のため、資料を配布し、各自で読んでもらった。

## 9 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染予防対策のため、ボランティアの受け入れを中止した。

## 10 東蒲の里みかわ園 災害対策

### 1. 避難訓練

※6月(東蒲の里みかわ園)、7月(高齢者支援ハウス)において火災想定避難訓練実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染対策のため訓練を中止した。

開催月日	訓練内容	参加者数
6月11日	・土砂災害避難訓練(日中想定) 土砂災害警戒レベル・ステージ3が発表された想定で実施した。	20名 (職員)
10月22日	・火災想定避難訓練(日中想定) 阿賀町消防本部立会いの下、避難訓練、初期消火訓練を実施した。  (近隣区長 2名参加)	18名 (職員)
12月3日	・火災想定避難訓練(夜間想定) 夜間実際に緊急連絡網により職員を招集し、車いすを利用者に見立て避難誘導を実施した。また消火器を使い初期委消火訓練を実施した。	15名 (職員)
2月22日	・緊急連絡訓練 夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。	50名 (職員)

### 2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
6月18日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
8月17日 ～21日	・火災受信機更新工事 火災報知器等消防設備の入替えを行った。
10月5日	・阿賀町消防本部による消防設備等点検 施設内部の立ち入り検査を受けた。
12月9日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

## 11 東蒲の里みかわ園 苦情受付・対応報告

### 苦 情

#### <特養>

##### 1. 利用者家族より

・入所契約時に、「今回入っていただくお部屋は個室になります。」と言われて説明を聞き契約をしたが、家に帰ってからよく考えると、今まで入院していた病院の入院費より高くなり月々の負担が厳しいので多床室に変えてもらいたい。入所前に入所料金について詳しく聞きたかった。」

・入所前の説明において不十分な点があったことを謝罪し、多床室への変更ができるよう対応した。契約前に料金についてご理解いただけるよう十分説明し、承諾を得ておくよう契約を担当する職員に周知した。<要因:説明・情報不足>

#### <短期>

##### 2. 匿名希望より

・「利用して帰ってから、うがい用のコップを出して見るとすごく汚れていた。以前も指摘してしばらくは大丈夫だったが、また汚れていた。私はこのコップではうがいきれないほどの汚れだった。改善してほしい。」

・ご利用者及びご家族に謝罪し、今後は退所される方の口腔ケアセットの汚れの確認と、長期間利用されている方には、定期的にハイター消毒を行うよう徹底した。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

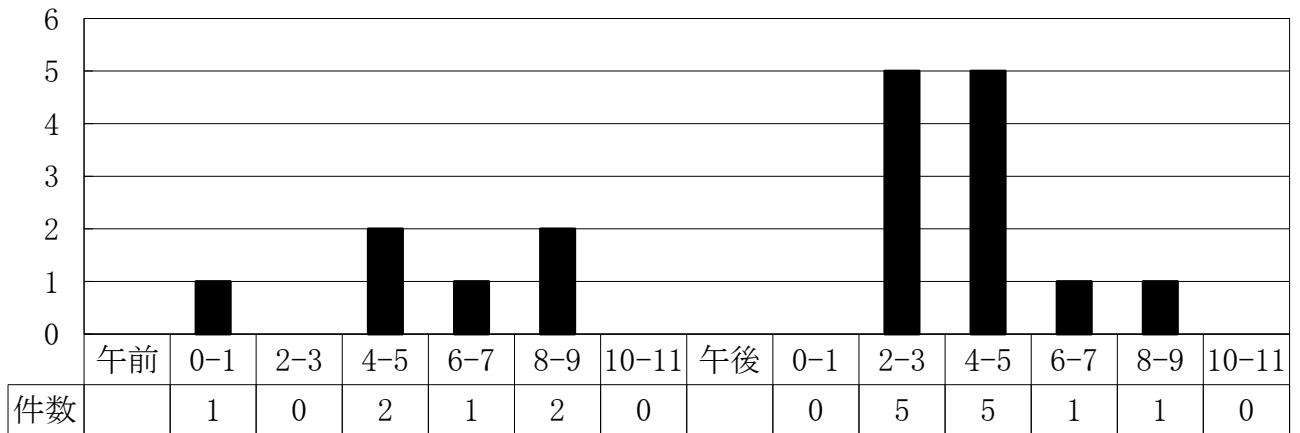
事業	件数
特 養	1 件
短期入所	1 件
通所介護	0 件
合 計	2 件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1 件
職 員 の 態 度	0 件
サービスの質	1 件
サービスの量	0 件
権 利 侵 害	0 件
そ の 他	0 件
合 計	2 件

## 12 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 18 件〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	4 件
食堂・ダイルーム	5 件
トイレ	0 件
廊下・玄関	0 件
浴室	2 件
施設外	5 件
その他	2 件
合計	18 件

### 3. 内容別発生件数

発生内容	件数
転倒・転落	0 件
裂傷・火傷	0 件
打撲・皮下出血	0 件
チューブ抜去	1 件
私物紛失	0 件
無断外出	2 件
異食・誤飲	0 件
誤薬	4 件
車輛事故	5 件
その他	6 件
合計	18 件

#### 4. 事故報告

・各事業所で事故の発生後に原因分析と検証を行い、また全職員で「ひやりハット報告」を提出し、事故予防の意識を高める取り組みを行ってきております。令和2年度は、法人内で事故の取扱いについて統一したことで前年度より件数が減っております。発生状況については、「車両事故」（路肩などへの接触事故等）、「誤薬」（服薬時間の誤り等）、「私物の破損」（洗浄時入れ歯の破損等）が多かったこと、また午後の2時から5時の時間帯に事故が多く発生しているため、分析と検証を行い、対策を周知徹底して事故予防に取り組めます。



## IV 令和2年度社会福祉法人東蒲原福祉会

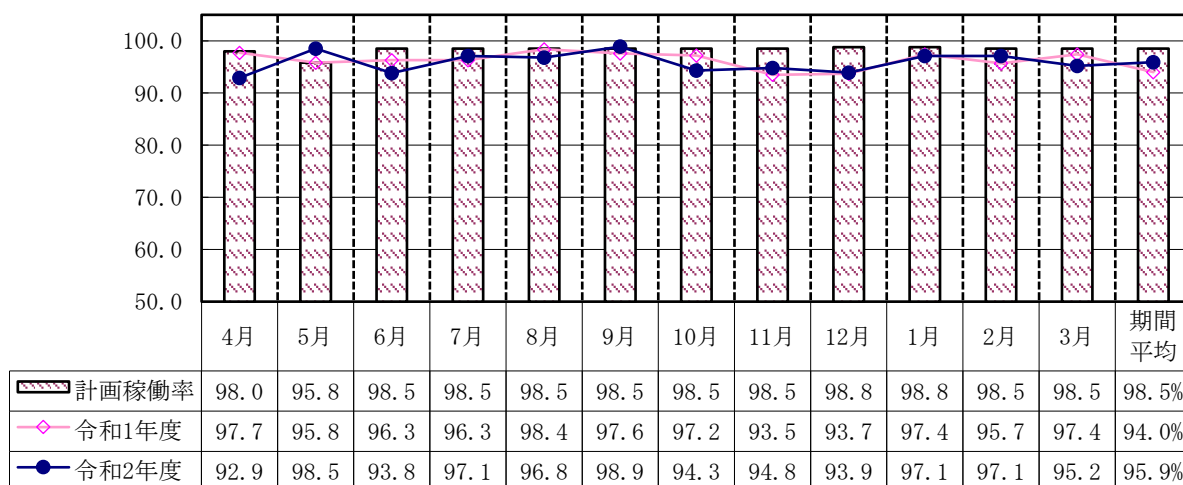
### ケアセンターどんぐり 事業報告

	頁
1. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	6 1
2. 訪問介護事業（介護保険）	6 4
3. 小規模多機能型居宅介護事業	6 8
4. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	7 2
5. 高齢者生活調査事業	7 5
6. まごの手サービス（介護保険外事業）	7 5
7. ケアセンターどんぐり研修報告	7 7
8. ケアセンターどんぐり災害対策	7 8
9. ケアセンターどんぐり苦情受付・対応報告	7 9
10. ケアセンターどんぐり事故等発生状況報告	8 0

# 1 短期入所生活介護事業

## 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

1日定員(21人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,347日であったことから

$7,347 \text{ 日} \div 7,665 \text{ 日} \langle 21 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} = 7,665 \text{ 日} \rangle = 0.9585$  稼働率 95.9%

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

## 2. 要介護度別利用延べ日数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
令和 1 年度	435	449	1,169	1,436	2,200	959	615	7,263 日
令和 2 年度	62	266	1,528	1,497	2,175	1,726	93	7,347 日

## 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	39	34	36	38	40	38	35	35	39	36	41	41	38 人
延べ利用日数	585	641	591	632	630	623	614	597	611	632	571	620	612 日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和1年度	1.42	12.6日	2.70	16.1日
令和2年度	1.13	10.9日	2.53	16.6日

#### 5. 要介護度状態の変化(令和2年3月にご利用されている方を対象とします。)

内容	要支援	要介護
改善	3人	1人
維持	0人	30人
悪化	0人	7人
合計	3人	38人

#### 6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月16日 ～23日	花見	・城山公園と角神へ行き、桜を眺め気分転換を図った。
8月28日	納涼祭	・景品が当たるゲームを行い楽しんでもらった。
9月29日	敬老会	・慶祝者にちゃんちゃんこを着ていただきお祝いをした。ご利用者に記念品の贈呈を行った。
11月10日 12日	バスハイク	・外出の機会が少なくなっていることから気分転換を図るために、角神、室谷方面まで行き紅葉を見てきた。
11月18日	秋の味覚祭	・鮭のちゃんちゃん焼きや栗ごはんなど秋の味覚を味わっていただいた。秋に収穫できる物を用意しレクリエーションを行った。
12月18日	クリスマス忘年会	・職員がクリスマスにちなんだ仮装を行いご利用者にプレゼントをお渡した。歌やゲームで楽しんでいただき、ケーキを召し上がってもらった。
2月2日	節分	・鬼に扮した職員に向けて、ご利用者が豆をまき鬼退治していただいた。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

## 7. 事業報告(総括)

ショートステイの役割を理解し、サービス提供を行う職員として節度ある対応を実践します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ご利用者やご家族のニーズが引き出せるよう、言葉遣いや態度など相手と円滑なコミュニケーションが図れる対応を実践します。</li> <li>②地域住民と交流の機会が増えるよう積極的な挨拶に取り組みます。</li> <li>③職種や役職の立場を理解し、節度ある言動を身につけます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>①送迎や電話での対応など、ご利用者やご家族のニーズが引き出せるような態度で対応することができた。</li> <li>②地域住民との交流の機会はなく、積極的な挨拶に取り組みなかった。</li> <li>③職種や立場を理解し、上司又は医療機関、他のサービス事業者に対し節度ある言動や挨拶ができるよう取り組んだ。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用される方以外に対しても、親しみやすい表情や節度ある態度で対応し、社会人としての言動を心掛ける。</li> </ul>

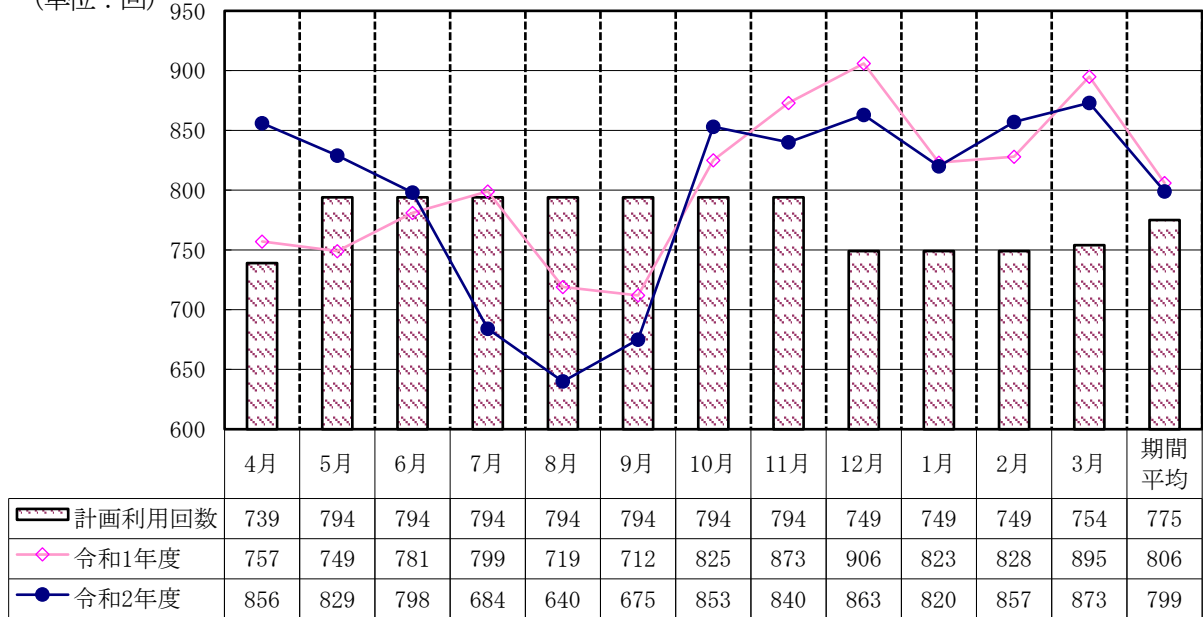
基礎的な知識・技術の習得を行い、介護技術の向上を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各職種が個々の役割を理解し、職種ごとの技術を活かした心身のケアに努めます。</li> <li>②統一したケアを実践するために、根拠に基づいた基礎技術の習得に取り組みます。</li> <li>③介護技術の向上と専門性を身につけるために資格取得を目指します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>①介護、看護、相談員の職種に求められる役割の中で、ご利用者の心身の状態に寄り添ったケアに努めた。</li> <li>②異動などにより、経験を積んだ介護職員が増えたことで、経験が浅い介護職員は基礎技術を学ぶ機会ができた。</li> <li>③介護福祉士実務者研修を職員2名が受講し、国家試験を受験したが不合格だった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統一したケアを実践するために、サービスの質と技術の向上に取り組む。</li> </ul>

医療的ケアを必要とするご利用者の対応を可能にするため、受け入れ体制を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 喀痰吸引等研修を受講し資格取得を目指します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 喀痰吸引等研修を職員3名が受講した。現在法人内の施設で実地研修を受けている。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引等研修の受講を継続し、利用者の状態に合わせて柔軟に対応できる体制を整える。</li> </ul>

## 2 訪問介護事業(介護保険)

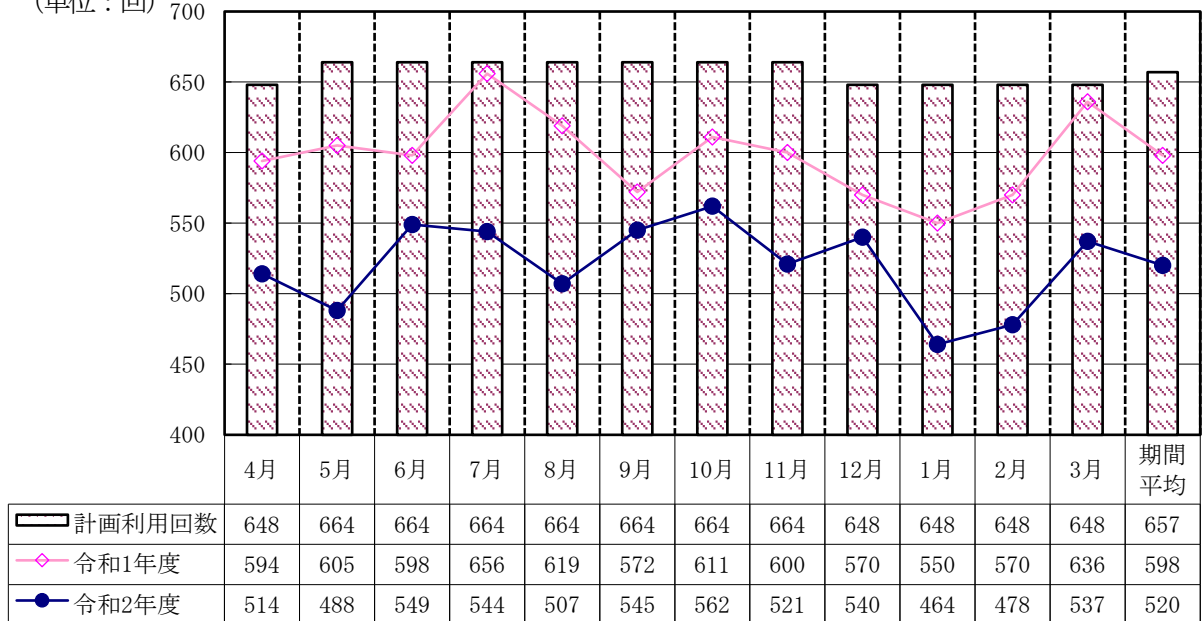
### 1. 訪問介護月別実績状況

(単位：回)



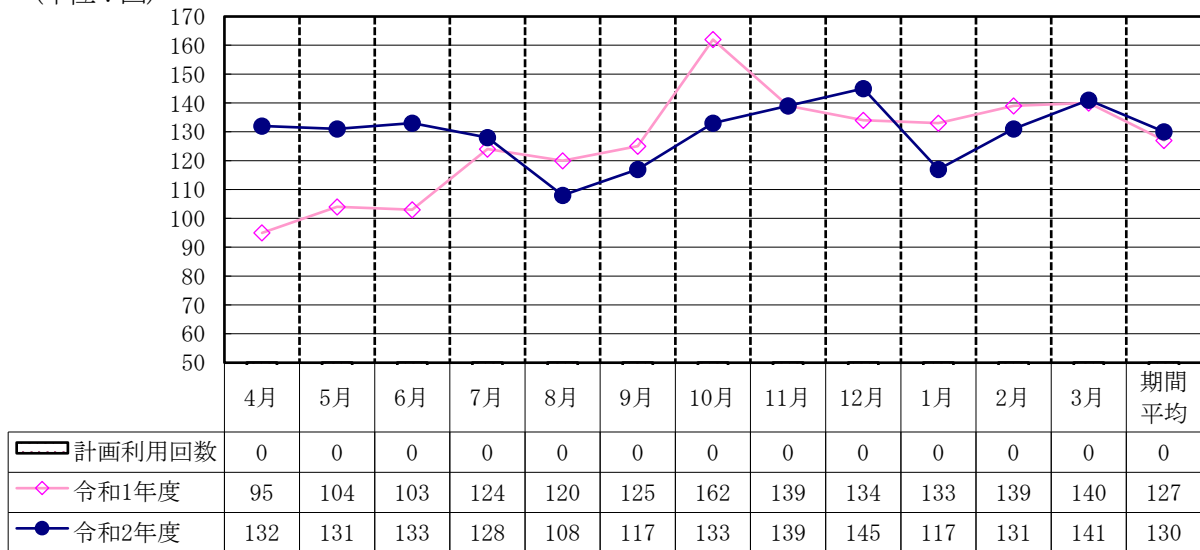
### 2. 予防訪問介護月別実績状況(支援1、支援2)

(単位：回)



### 3. 事業対象者月別実績状況(事業対象者利用回数のみ抜粋)

(単位：回)



### 4. 月別利用状況(予防訪問介護事業、事業対象者含む)

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4月	178人	1,598回	96回	1,502回	93.9%
5月	175人	1,561回	113回	1,448回	92.7%
6月	177人	1,584回	104回	1,480回	93.4%
7月	174人	1,575回	219回	1,356回	86.0%
8月	172人	1,357回	102回	1,255回	92.4%
9月	181人	1,451回	114回	1,337回	92.1%
10月	183人	1,645回	97回	1,548回	94.1%
11月	182人	1,587回	87回	1,500回	94.5%
12月	180人	1,629回	81回	1,548回	95.0%
1月	174人	1,467回	66回	1,401回	95.5%
2月	176人	1,534回	68回	1,466回	95.5%
3月	175人	1,681回	130回	1,551回	92.2%
計	2,127人	18,669回	1,277回	17,392回	93.1%
月平均	177人	1,556回	106回	1,449回	—

※稼働率について

訪問介護事業の予約数を100%として、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを表します。

利用実績が17,392回で、予約数が18,669回であったため、

$17,392 \div 18,669 = 0.93159$  稼働率 93.1%

## 5. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4月	6人	0人	0人	2人	3人	5人
5月	6人	0人	0人	3人	1人	4人
6月	7人	1人	0人	5人	2人	8人
7月	5人	0人	0人	2人	1人	3人
8月	3人	0人	0人	2人	2人	4人
9月	6人	1人	0人	0人	1人	2人
10月	5人	1人	0人	3人	2人	6人
11月	10人	1人	0人	2人	2人	5人
12月	2人	0人	1人	2人	0人	3人
1月	7人	0人	0人	1人	1人	2人
2月	10人	0人	1人	3人	3人	7人
3月	6人	1人	0人	3人	2人	6人
計	73人	5人	2人	28人	20人	55人

## 6. 要介護度別利用延べ回数

	事業 対象者	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 1年度	1,518	3,444	2,196	2,782	1,698	882	2,120	2,185	16,825 回
令和 2年度	1,555	4,150	2,099	3,588	1,885	1,458	1,259	1,398	17,392 回

## 7. 平均介護度及び平均利用回数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数
令和 1年度	1.28	6.2 回	2.57	11.6 回
令和 2年度	1.26	6.8 回	2.21	10.9 回

8. 事業報告(総括)

訪問介護の役割を理解し一人ひとりが個々の能力を最大限に発揮します。	
取組事項	① 挨拶を徹底し「前向き」「積極的」「協力的」な職場環境を作ります。 ② 訪問介護員としての役割について勉強会を行います。
実績	① 常に職員間や地域住民の方への挨拶を心掛けた。 ICTを導入しサテライト間で情報をリアルタイムで共有することができた。 ② 毎月の地区検討会で事例検討を行い、日々の訪問の中での気づきやサービス内容について見直しを行った。
課題と今後の取組	・職員間で、互いに不足する部分をフォローし合いチームプレイを意識して業務に取り組めるよう心掛ける。

専門職としてのスキルを身につけ、根拠に基づいたケアを実施します。	
取組事項	① 介護福祉士の資格取得を目指します。 ② 職員一人ひとりが課題を明確にし、基礎技術を取得することでお互いに学びあう風土を作ります。
実績	① 受験資格を有する職員が1名受験し、介護福祉士資格を取得することができた。 ② 職員個々で年間目標を立て、取り組みを行った。 また、毎月の地区検討会で研修資料の作成や研修の進行を行った。
課題と今後の取組	・ご利用者ができる限り自宅で生活できるよう根拠に基づいた介護技術を習得していく。

法人内にすべての在宅サービスがある強みを活かし、一体的なサービスを提供できるよう協力体制を整えます。	
取組事項	① ケアセンターどんぐりを本所とし、東蒲の里とみかわ園にサテライト事業所を設置します。各施設内の在宅サービスと情報共有を密にし、ご利用者一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるよう連携を図ります。
実績	① サテライト事業所を設置し、訪問の効率化を図ることができた。各施設内の在宅サービスや居宅支援事業所と情報共有を行い、法人内の在宅サービスを円滑に効率よく利用できるよう情報共有と訪問の調整を行った。
課題と今後の取組	・ICTの活用により、さらに訪問の効率化を図る。



### 3 小規模多機能型居宅介護事業

#### 1. 介護度別登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	5	4	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3.1人
要支援2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1.4人
要介護1	7	8	8	7	7	7	6	8	7	7	7	7	7.2人
要介護2	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	6	6	4.7人
要介護3	4	4	4	5	3	3	4	4	4	5	6	6	4.3人
要介護4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	1	1	2.4人
要介護5	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0.3人
合計	25	25	25	24	23	22	23	24	22	22	23	23	23.4人
稼働率	100	100	100	96.0	92.0	88.0	92.0	96.0	88.0	88.0	92.0	92.0	93.6%

※稼働率について

小規模多機能居宅介護事業の登録定員(25人)を 100%とした場合の実登録者の割合を表しています。1年間の延べ利用者数が281人であったことから

$$\frac{281人}{300人} = 0.936 \quad \text{稼働率 } 93.6\%$$

(延べ利用者数) (登録定員 25人)

#### 2. サービス別稼働率

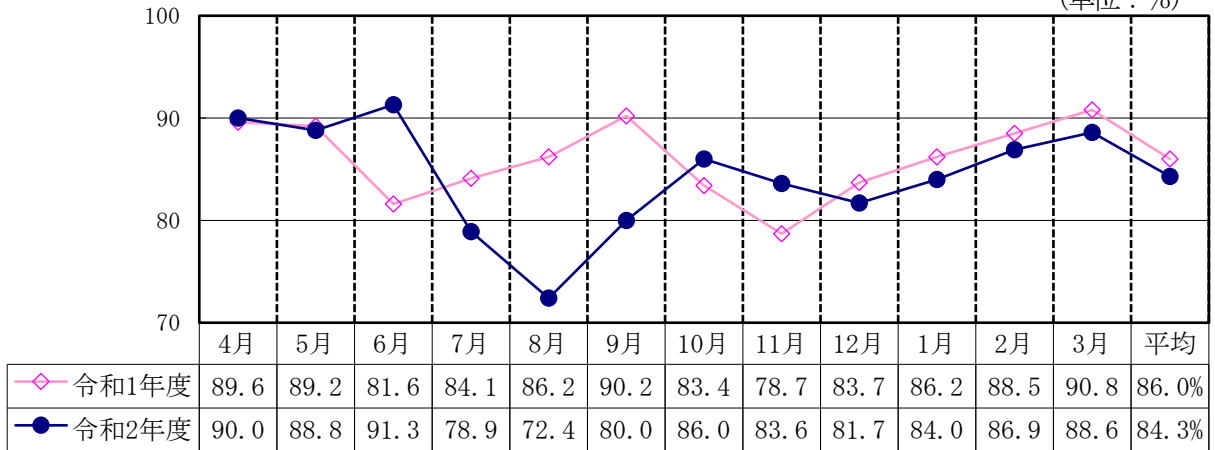
##### (1) 訪問サービス

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数 (令和1年度)	11	11	10	11	11	11	9	10	10	11	11	10	11人
実利用者数 (令和2年度)	13	14	13	11	13	8	12	10	9	7	8	8	11人
延べ利用回数 (令和1年度)	255	266	231	283	274	279	309	209	198	172	166	200	237回
延べ利用回数 (令和2年度)	281	311	365	342	291	252	269	284	312	253	256	299	293回

## (2) 通いサービス

〈稼働率〉

(単位：%)



### ※稼働率について

通いサービスの1日定員(15人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

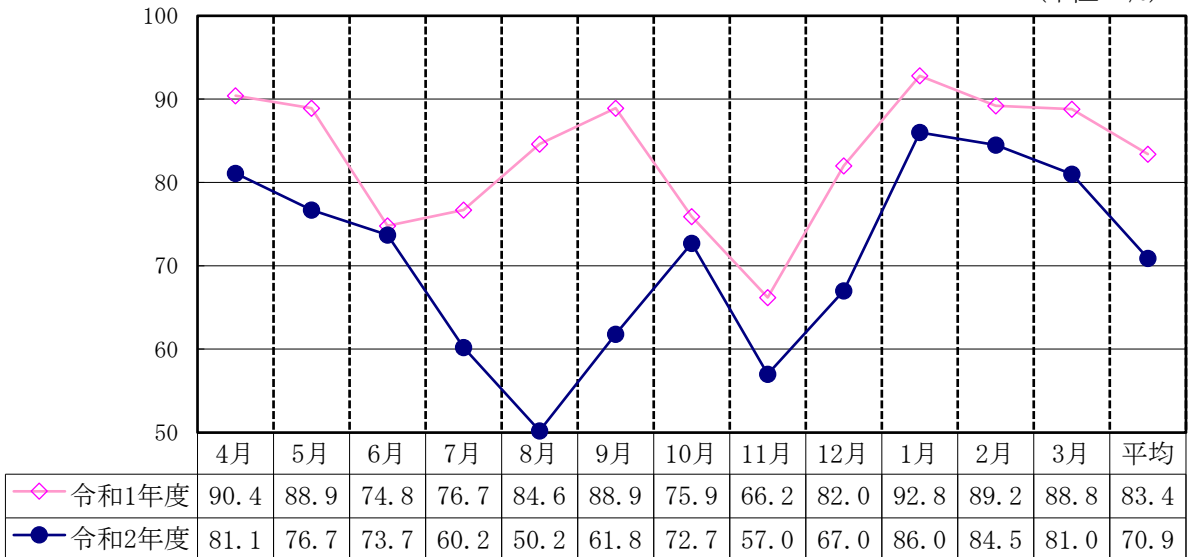
1年間の延べ利用人数が4,617人であったことから

$$\frac{4,617 \text{ 人}}{(延べ利用人数)} \div \frac{5,475 \text{ 人}(15 \text{ 人} \times 365 \text{ 日})}{(定員) (実稼働日数)} = 0.8432 \text{ 稼働率 } 84.3\%$$

## (3) 泊まりサービス

〈稼働率〉

(単位：%)



### 稼働率について

泊まりサービスの1日定員(9人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

1年間の延べ利用人数が2,330人であったことから

$$\frac{2,330 \text{ 人}}{(延べ利用人数)} \div \frac{3,285 \text{ 人}(9 \text{ 人} \times 365 \text{ 日})}{(定員) (実稼働日数)} = 0.7092 \text{ 稼働率 } 70.9\%$$

### 3. 平均介護度

	要支援	要介護
令和1年度	1.41	2.37
令和2年度	1.31	2.16

### 4. 年間行事報告

月別	実施行事	内容
4月18日 ～21日	観桜会 ドライブ	・鹿瀬方面や上川地区にて桜の花を見ながら散歩や、茶話会で気分転換を図った。
6月4日	ドライブ 消防署見学	・新しくなった消防署の見学に行き、建物や、消防署職員さんのご厚意により、シャッターを開けていただき、消防車の見学等を行った。
7月13日	ハーバルパーク	・ハーバルパークへの外出で、気分転換を図った。
8月28日	納涼祭	・景品が当たるゲームを行い楽しんでもらった。
9月28日	敬老会	・祝賀の方の記念撮影と、ご利用者全員へ記念品を贈呈した。
10月11日 ～27日	ドライブ	・室谷方面や、鹿瀬方面へのドライブで気分転換を図った。
11月18日	秋の味覚祭り	・鮭のちゃんちゃん焼きや栗ご飯など秋の食を振る舞い、ご利用者に楽しんでいただいた。
12月18日	クリスマス忘年会	・職員がサンタクロースになって、ご利用者にプレゼントをお渡しした。
2月2日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

## 5. 事業報告(総括)

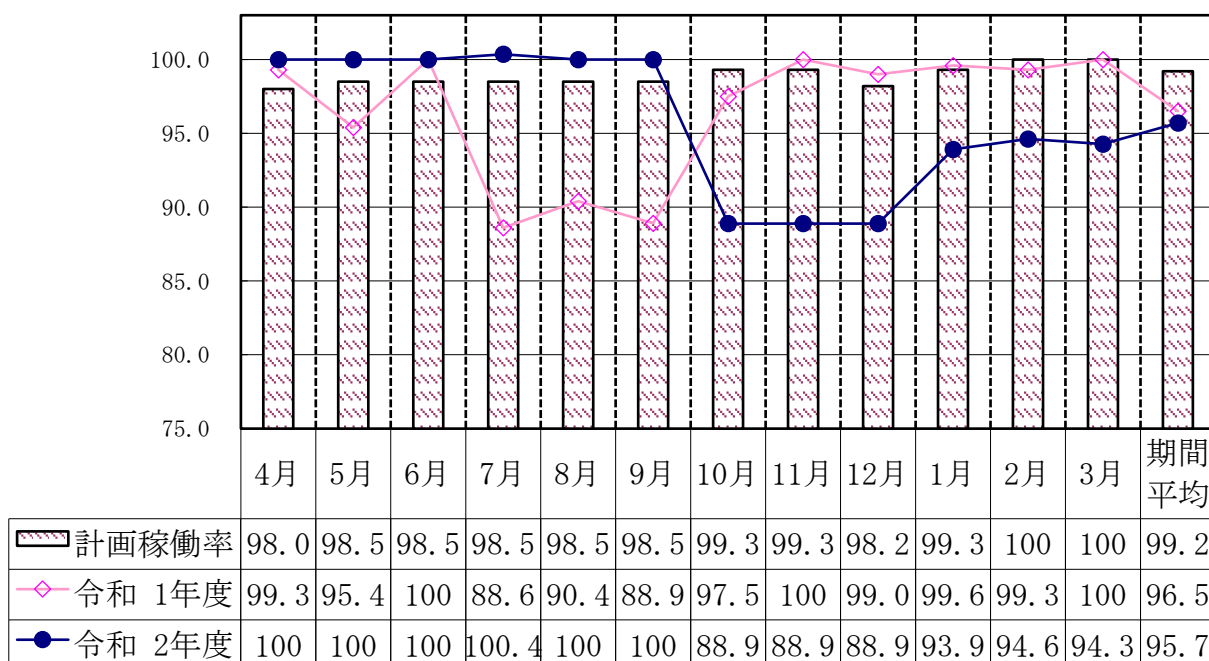
職員一人ひとりが専門職として、訪問・通い・泊り、それぞれのサービスを活かした支援ができるようスキルの向上を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ご利用者の在宅での生活が充実したものとなるよう、訪問サービスについての知識向上に取り組みます。</li> <li>②根拠に基づいた、基礎的技術の習得に努め、通いや泊りのサービスについて、質の高いサービス提供を目指します。</li> <li>③介護福祉士の資格取得に努めます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ご利用者個々のニーズや対応について情報共有を図るとともに、声掛けや対応について、経験豊富な職員に、指導や意見を求め、統一したサービス提供ができるように努めた。</li> <li>②施設内サービスについて、ご利用者個々の状態に合わせたケアについて、職員が自ら考え行動できるよう有資格者、経験豊富な職員からの研修の実施や、指導を行った。</li> <li>③介護福祉士取得のため、1名実務者研修を受講。一昨年度の受講者を含め、2名が国家試験を受験したが、不合格だった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員それぞれが、知識、技術の向上について、積極的に取り組めるよう、意識改革を図る。</li> </ul>

地域との交流、連携を大切にし、地域に周知され、信頼される事業所を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①法人職員として節度ある対応を身につけます。</li> <li>②運営推進会議を活かし、事業所自己評価や会議で出た意見の改善に取り組みます。</li> <li>③地域医療や関係機関との連携を密に図り、ご利用者、ご家族の心身の健康を支えます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ご利用者、ご家族への対応について、言葉遣いや、態度などに気を配り、気になった場合は、職員同士が注意しあえるよう取り組みを行った。</li> <li>②新型コロナウイルス感染症予防のため、書面を配布し開催することもあったが、いただいた要望や意見については、改善できるように検討した。</li> <li>③医療機関、他事業所との連携を図ることで、ご利用者個々のニーズに合わせた、サービスの提供ができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関、関係機関への対応や連携について、職員全体で理解できるよう取り組んでいく。</li> </ul>

## 4 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

認知症対応型共同生活介護事業所の1日定員(9人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。1年間の延べ利用日数が3,145日であったことから

$$\frac{3,145 \text{ 日}}{3,285 \text{ 日} \langle 9 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 0.957 \quad \text{稼働率 } 95.7\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

### 2. 要介護度別入所者数(令和2年3月31日現在)

	要支援	要介護度					平均
	2	1	2	3	4	5	
令和1年度	0	1	3	2	1	2	3
令和2年度	0	2	4	2	0	1	2.66

### 3.年間行事報告

月 別	実施行事	内 容
6月21日	バーベキュー	・グループホームのホールでお好み焼きや焼きそばを作り昼食に合わせて楽しんだ。
8月6日	流しそうめん	・流しそうめん、スイカ割をして楽しんだ。
9月25日	バスハイク	・ハーバルパークへ出掛け、パーク内を散策し、アイスクリームを食べ楽しんだ。
9月28日	敬老会	・慶祝者の表彰、ご利用者全員へ記念品贈呈、余興を楽しんでいただいた。
10月28日	紅葉狩り	・きりん堂からお饅頭を購入し、室谷へ紅葉を見に出かけた。
11月18日	秋の味覚祭	・鮭のちゃんちゃん焼きや栗ご飯など秋の食を振る舞い、ご利用者に楽しんでいただいた。
11月20日	ラーメン作り	・事業所内でラーメンを作り、ご利用者に好きなトッピングをしてもらい食事を楽しんだ。
12月18日	クリスマス忘年会	・ゲーム大会を開催。ショートケーキを食べ、サンタクロースに扮装した職員よりプレゼントを渡した。
2月2日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

### 4. 事業報告(総括)

認知症の方へ適切な対応ができる職員を目指します。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者やご家族に安心を与えられるよう、状況に応じた適切な声掛けや対応ができるよう心掛けます。</li> <li>② 認知症実践者研修など各外部研修への参加や内部研修を計画的に実施し、認知症ケアの専門職としてスキルの向上を図ります。</li> <li>③ 介護福祉士資格を取得できるよう努めます。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎月の事業所内会議で適切な声掛けや対応について振り返りや確認を行い、意識付けを行った。</li> <li>② 認知症実践者研修に2名申し込みをしたが、受講申し込み者多数のため否決定となり受講することができなかった。内部研修では定期的に認知症に関する研修を行い、認知症ケアに関する知識の習得に努めることができた。</li> <li>③ 1名の職員が介護福祉士資格を取得することができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	・認知症ケアの専門職として、認知症についての知識を深め実践していく。

認知症の進行を緩和し、安全で快適な暮らしができる環境づくりに努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者の日常生活が心穏やかで豊かなものになるよう、対人援助スキルを磨きます。</li> <li>② 掃除・洗濯・食事作り等の日常生活動作を共に行うことで、身体機能が維持できるよう支援します。</li> <li>③ レクリエーションや年間行事を充実させ、外出の機会を確保します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 対人援助を行う上で不可欠な対人コミュニケーションの図り方について研修を行い実践に繋げ、職員同士で意見を交換しながら援助スキルの向上に努めた。</li> <li>② ご利用者の能力に合わせた活動や動作を積極的に選択し、身体機能維持のための取り組みを行うことができた。</li> <li>③ 新型コロナウイルス感染症のため例年同様に外出機会を設けることが難しかったが、毎月施設内で行える行事を立案し実施することができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が更なる知識の習得と質の向上を図るため、研修や勉強会に積極的に参加し、日々の支援に活かしていく。</li> </ul>

## 5 障害福祉サービス事業

### 1. 月別利用状況

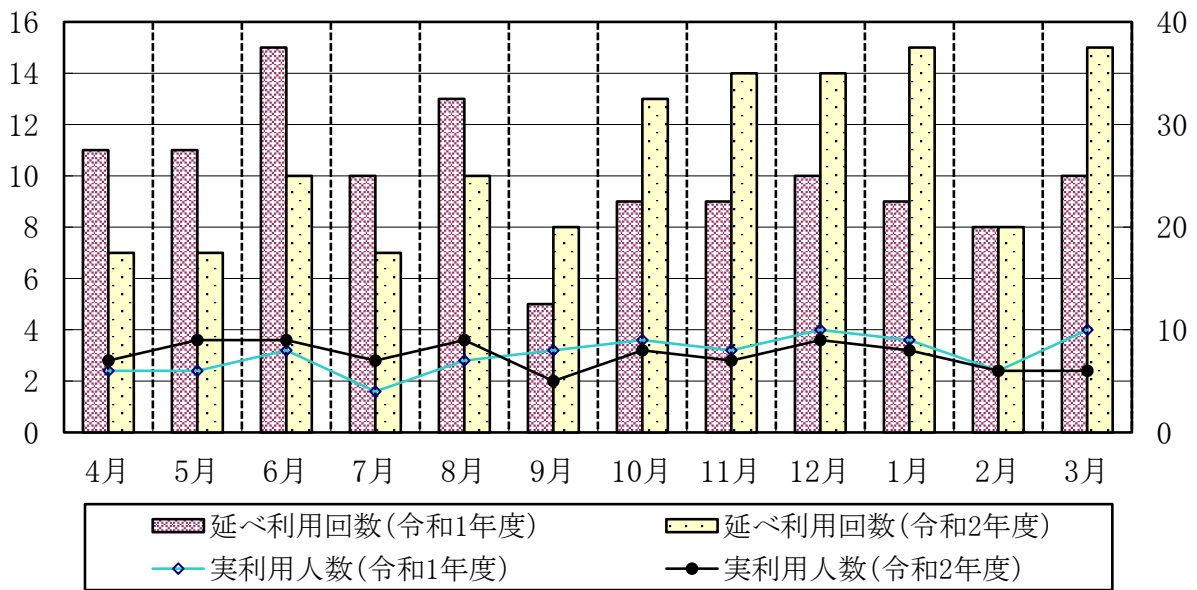
月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	18	17	16	16	15	13	13	13	13	13	14	14	175人
延べ利用回数	279	260	254	249	240	232	228	204	208	196	198	231	2,779回

## 6 まごの手サービス (介護保険外事業)

### 1. まごの手サービス 事業利用状況

(延べ利用回数)

(実利用人数)



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (令和1年度)	6	6	8	4	7	8	9	8	10	9	6	10	91人
実利用人数 (令和2年度)	7	9	9	7	9	5	8	7	9	8	6	6	90人
延べ利用回数 (令和1年度)	7	7	10	7	10	8	13	14	14	15	8	15	128回
延べ利用回数 (令和2年度)	11	11	15	10	13	5	9	9	10	11	8	10	122回



## 2. 「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数	11	11	11	9	11	11	11	11	11	10	10	10	127人
延べ利用回数	373	344	323	316	274	295	300	318	322	290	298	311	3,764回

## 3. 事業報告(総括)

独居や家族の就業によって一人での時間の不安や心配を軽減します。	
取組事項	① 介護保険サービスと見守り安心確認サービスを組み合わせて利用することで、在宅生活の継続が可能であることを提案します。
実績	① 見守り安心確認サービスで柔軟な対応を行い、介護保険では対応できない介護の不足を補えたことで、施設入所ではなく自宅での生活を続けてもらうことができた。
課題と今後の取組	・何かあった時、見守り確認サービスを柔軟に活用することで利用者や家族が安心した自宅での生活を続けられるよう、家族とのコミュニケーションや対応について認識の統一を図っていく。

在宅サービスを利用中に家族が対応できない受診介助を行い、家族の負担軽減を図ります。	
取組事項	① 在宅サービス事業所と情報の共有を図り、スムーズな受診介助を行います。
実績	① 利用中のショートステイでの様子や、医療機関に伝達すべきことについて、受診の前に確認を行い連携ノートに記載してもらうことでスムーズに受診介助が行えた。
課題と今後の取組	・利用者が安心して過ごせるよう、できる限り同じ職員が対応できるよう配慮していく。

## 7 ケアセンターどんぐり 研修報告

### 1. 研修種別の内訳

項目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	介護福祉士実務者研修
		安全運転管理者等講習会
		指定障害サービス事業所集団指導
		在宅介護サービス提供者に向けた高齢者栄養講座
		喀痰吸引等研修（基本研修）
		喀痰吸引等研修（演習）
		サービスの提供のプロセスの理解

### 2. 内部研修参加状況

開 催 日	研 修 名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
5月	交通安全講話	62	62	100
6月	認知症研修	62	62	100
7月	救急法	新型コロナウイルス感染症予防のため中止となる。		
9月	法令順守、人権擁護、個人情報保護、虐待・身体拘束について	62	62	100
10月15日 10月27日 10月28日	吐物処理	64	60	96.8
11月	接遇マナー	62	62	100
12月	火災予防	62	62	62

※新型コロナウイルス感染症予防対策のため集合研修は行わず(吐物処理は除く)、資料配布での研修方式とした。

### 3. 研修報告(総括)

#### ①外部研修

・新型コロナウイルス感染症の影響で研修の中止や研修の縮小があり参加することができないことがあった。資格取得に繋がる研修については、積極的に参加することができスキルの向上に繋げることができた。

#### ②内部研修

・職員が集まる研修は行えなかったが、資料配布と個別での指導にて理解を深めることができた。

## 8 ケアセンターどんぐり 災害対策

### 1. 防災伝達・避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月3日	防災伝達訓練 ・夜間に緊急連絡網を使用し、伝達訓練を行った。	64名
11月25日	避難訓練 ・新型コロナウイルス感染症予防のため阿賀町消防署員立ち会いなしで、職員、ご利用者参加による避難訓練を実施した。	21名 (職員) 37名 (利用者)
3月22日	夜間想定避難訓練 ・新型コロナウイルス感染症予防のため阿賀町消防署員立ち会いなしで、職員、ご利用者参加による避難訓練を実施した。	37名

### 2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
6月19日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
その他	・防災委員会で消防用設備等自主点検を実施。

### 3. その他

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、阿賀町消防本部による立ち入り検査未実施。消防署より消防設備点検の報告等助言いただいた。

## 9 ケアセンターどんぐり 苦情受付・対応報告

### 苦 情

<小規模多機能事業所>

#### 1. 利用者ご家族より

ご利用者の右腕の裂傷、表皮剥離、内出血について、原因が不明とのことだが、もっと原因の追究をしてほしい。本人がどこかにぶついたりするのは仕方がないと思うが、今回は人の力が加わってできた怪我のように思う。そういう辛さや不安は感じてほしくない。事業所での様子についても、連携ノートを見てもよくわからない。いいことも悪いことも、もっと報告が必要なのではないか。

- ・ご家族へ経緯について説明し、原因について特定できなかったことを謝罪する。
  - ・全職員で傷や内出血を負う原因の可能性を考え、問題点と改善策の検討を行った。
  - ・改善事項について全職員で統一を図るとともに、ご家族へ報告と説明を行い今後の支援の方法について共有した。
- <要因:サービスの質>

#### 2. ご利用者家族より

夕方おむつ交換に訪問した職員について「おむつの当て方がゆるく、便がついたまま、きれいにしていかなかった。昨日も同じ職員がおむつの交換をしてみたが、母が「背中が冷たい」と訴えたため確認すると背中が濡れていた。おむつの表面には便が付着していたし、おむつの当て方もちゃんとできない。こんなことでは困る。同じ職員がおむつ交換するといつも何かしらあった。

- ・連絡を受け管理者と訪問対応した職員で自宅へ伺い謝罪を行った。
  - ・管理者が、訪問対応した職員におむつの当て方等を確認しながら指導を行った。
  - ・ご家族が意見や要望を訴えやすいようにコミュニケーションの強化を図る。
  - ・全職員でおむつ交換の手技について研修を行った。
- <要因:サービスの質>

#### 苦情の発生件数

事業	件数
訪問介護	0件
短期入所	0件
小規模多機能	2件
グループホーム	0件
合計	2件

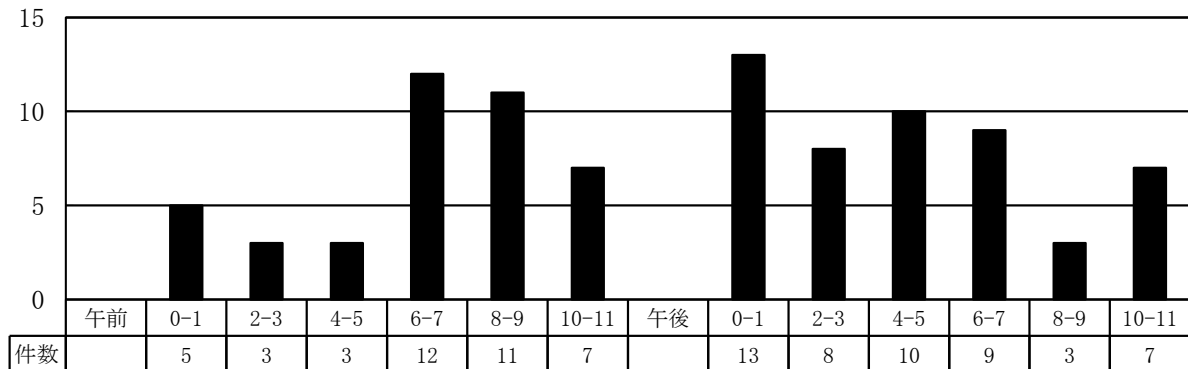
#### 苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	2件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
合計	2件

## 10 ケアセンターどんぐり 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数

(単位：件数)



〈発生件数合計 91 件〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	31 件
ホール	22 件
トイレ	10 件
廊下・玄関	6 件
浴室	1 件
施設外	2 件
利用者自宅	5 件
その他	14 件
合計	91 件

### 3. 内容別発生件数

事故内容	件数
転倒・転落	38 件
裂傷	12 件
打撲・皮下出血	6 件
チューブ抜去	0 件
無断外出	1 件
私物紛失	10 件
異食・誤飲	5 件
誤薬・服薬忘れ	2 件
車輛事故	2 件
その他	15 件
合計	91 件

#### 4.事故等発生状況総括

- 事故発生件数については、令和1年度の57件から令和2年度は91件と大幅に増加している。事故の内容としては、転倒・転落が38件と最も多くなっており、転倒・転落については同じご利用者において複数回の事故発生が確認されている。その都度、事故発生要因の分析と検証・対策の検討を行い、さらに対策を実施した後の評価と再検討を行なうことで、同様の事故発生予防に努めている。
- 今後も研修等を通じて、職員の事故予防に対する意識を高め、事故発生要因の分析と検証・対策を継続し、事故減少に向けて取り組んでいく。